

滋賀県農会報38号

誌名	滋賀縣農會報
ISSN	
著者名	
発行元	滋賀縣農會
巻/号	38号
掲載ページ	p. 1-57
発行年月	1905年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



其他手入		計		資		種		種		種		種		種		種		種	
男	女	男	女	本	割	目	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇
三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇
一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇
三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇
一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇
三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇
一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇	一〇〇	三〇
三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇	三〇〇	五〇

備考
 一 反歩ニ對スル公定田地々價金八拾圓全畑地價金四拾圓ニシテ公課額ハ參圓六拾貳錢・

明治三十八年十月廿五日發行

昭和三年十月三十一日
 農事試驗場

滋賀縣農會報

第參拾八號

滋賀縣農會

滋賀縣農會報第三十八號目次

◎本會記事

○會長辭職及就職○前會長へ贈品○名譽會員推選○滋賀縣農會明治三十八年度
 歲計變更豫算○滋賀縣農會旅費支給規程中改正○滋賀縣農會基本金規則中改正
 ○滋賀縣農會明治三十七年度經費決算○滋賀縣農會明治三十七年度會務報告○
 本會評議員會○本會明治三十八年度第二回通常總會○國庫補助金交付○本會縣
 費補助金に對する命令書

◎郡市町村農會記事

○明治三十八年度各郡市農會經費豫算○愛知郡秦川村野野整理地管理作業組合
 規約

◎雜報

○耕地整理の氣運○蠶業講習所春蠶飼育成績○雜糧共同飼育成績○各郡市農會
 卅八年度經費豫算○稻種名改稱

◎法令

○專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則中改正の件

滋賀縣農會報

第參拾八號



◎會長辭職及就職

會長伊澤多喜男君事故辭退に付き七月一日本會通常總
 會に於て推選したる本縣事務官從六位帆足準三君本會
 長に就任せり

◎前會長へ贈品

茲に本會通常總會の決議を以て前會長伊澤多喜男氏の
 功績を紀念する爲め贈呈すべき紀念品に左の感謝狀を
 添へ之を贈呈せり
 伊澤多喜男君貴下貴下か本會に就職せられたるは昨

滋賀縣農會報第參拾八號

本會記事

(一)

年九月に在り爾來在職久しからざりしと雖銳意事業
 の規畫經營に盡瘁せられ本會をして今日の盛運を見
 るに至らしめたるは全く貴下か施措宜しきを得たる
 の結果に外ならず寔に縣下農業者の欽仰永く諉るへ
 からざる所あり然るに貴下今回都台に依り本會長を
 辭せらる遺憾涯りなしと雖も已むを得ざるの事情復
 奈何ともすへからず仍て聊か在职中の功績を紀する
 爲め本會總會の決議を以て金盃一個を贈呈し以て感
 謝の意を表す

明治三十八年七月二十六日

滋賀縣農會長 帆足 準三

正六位 伊澤多喜男殿

◎名譽會員推選

本縣技師立野貫一君を本會名譽會員に推選せり

◎滋賀縣農會明治三十

八年度歲計變更豫算

明治三十八年第一回通常總會の決議を經主務大臣の認
 可を得たる本會明治三十八年度歲計變更豫算左の如し

滋賀縣農會明治三十八年度經費收入更正豫算書

科	目	更正豫算高	現豫算高	比較の差	明
第三款	補助金	一〇・九〇五〇〇〇	二・四五五〇〇〇	減一・五〇〇〇〇〇	
第一項	國庫補助	二・五〇〇・〇〇〇	四・〇〇〇・〇〇〇	減一・五〇〇・〇〇〇	
第四款	前年度繰越金	四・五九六・六四四	一・八七四・〇二六	増二・七二三・六二六	
合	計	三・六六六・三六六	二・四四四・〇二〇	増一・二三二・三六六	

滋賀縣農會明治三十八年度經費支出更正豫算書

科	目	更正豫算高	現豫算高	比較の差	明
第一款	事務所費	一・三九九・一三〇	一・六八四・六三〇	減四八五・五〇〇	
第二項	事務員俸給	三〇・〇〇〇	四八・〇〇〇	減一八・〇〇〇	
第一目	書記俸給	三三・〇〇〇	三三・〇〇〇	減四八・〇〇〇	月給平均金拾參圓二人
第六項	雜費	一七五・五〇〇	一七三・〇〇〇	増二・五〇〇	
第五目	借家料	五〇・五〇〇	四八・〇〇〇	増二・五〇〇	事務所借家料一ヶ月金四圓十二ヶ月分 土藏全金貳拾五錢十ヶ月分
第三款	事業費	六・八四・一九〇	六・三九・三四〇	増五四・八五〇	
第一項	技術員費	五・〇五・二二〇	四・八三・二二〇	増二二・〇〇〇	
第一目	俸給	二・六七・〇〇〇	二・四三・〇〇〇	増二二・〇〇〇	技師月給金六拾圓一人技手月給平均金 四拾八圓參拾參錢參厘參人全金拾五圓 一人六ヶ月分全金拾四圓九ヶ月分
第六項	耕地整理設計費	四九二・八五〇	四四・〇〇〇	増四四八・八五〇	
第八項	耕地整理獎勵費	三〇〇・〇〇〇	一	増三〇〇・〇〇〇	

第一目	賞與費	三〇〇・〇〇〇	一	増三〇〇・〇〇〇	耕地整理率先施工者賞與金
第四款	會報費	三三六・〇〇〇	六九六・〇〇〇	減三三〇・〇〇〇	
第一項	會報發行費	三三〇・〇〇〇	六〇〇・〇〇〇	減三三〇・〇〇〇	
第五款	補助費	二・七三〇・〇〇〇	二・六九〇・〇〇〇	増一・〇四〇・〇〇〇	
第四項	耕地整理補助	一・八五〇・〇〇〇	九〇〇・〇〇〇	増九五〇・〇〇〇	三十七年度着工二ヶ所補助金九百五拾 圓三十八年度全九百圓
第七項	耕地整理講習生補助	九〇・〇〇〇	一	増九〇・〇〇〇	講習生一名一ヶ月補助金拾五圓六ヶ月分
第八款	豫備費	九三・三三六	一〇〇・〇〇〇	減六・七三四	
合	計	三・三六六・三六六	三・四四四・〇二〇	増一・三三三・六六六	

◎滋賀縣農會旅費支給規程中改正

明治三十八年第二回通常總會にて決議したる本會旅費支給規程中改正左の如し
 滋賀縣農會旅費支給規程中左の通改正す
 第一條を左の通改む
 第一條 旅費は順路に依り別表第一號の汽車賃、汽船賃、車馬賃、日當、宿泊料を支給す但し技師及技手の縣内旅行は月額とし別表第二號に依り支給す
 別表の下に「第一號」の三字を加へ縣内旅行表中「技師、技手」の文字を削る
 別表旅行表の次に左の一表を加ふ
 別表第二號

區別 四月 額
 技師 四拾五圓
 技手 參拾六圓

一、在勤地より用務地まで用務終了の地より在勤地への往復旅費は瀛車賃、瀛船賃、車馬賃を支給す但支給額は技師は幹事と技手は書記と同額を支給す
 二、日割の場合は月の大小に拘はらず三十日を以て計算す

◎滋賀縣農會基本金規則中改正

明治三十八年第二回通常總會に於て決議したる本會基本金規則中改正左の如し

滋賀縣農會基本金規則中左の通改正す

第三條中基本金はの下「當分」の二字を削り「國債證券又は」の六字を加ふ

第三條二項中前項の下「預入」の二字を削り「國債證券の購入又は預金」の十一字を加ふ

◎滋賀縣農會明治三十七年度經費決算書

科	目	收	入	決算額	豫算額	比較増減	說明
第一款	會費	六、二八四・九六六	六、二八四・九六六	六、二八四・九六六	六、二八四・九六六	—	
第一項	都市農會負擔額	六、二八四・九六六	六、二八四・九六六	六、二八四・九六六	六、二八四・九六六	—	

明

第一目	滋賀郡農會負擔金	四三〇・六〇九	四三〇・六〇九	四三〇・六〇九	四三〇・六〇九	—	
第二目	栗太郡 全上	五〇〇・〇〇〇	五〇〇・〇〇〇	五〇〇・〇〇〇	五〇〇・〇〇〇	—	
第三目	野洲郡 全上	四八〇・六三三	四八〇・六三三	四八〇・六三三	四八〇・六三三	—	
第四目	甲賀郡 全上	六四三・七四〇	六四三・七四〇	六四三・七四〇	六四三・七四〇	—	
第五目	蒲生郡 全上	七七八・三三七	七七八・三三七	七七八・三三七	七七八・三三七	—	
第六目	神崎郡 全上	四〇七・七七七	四〇七・七七七	四〇七・七七七	四〇七・七七七	—	
第七目	愛知郡 全上	五〇六・五三六	五〇六・五三六	五〇六・五三六	五〇六・五三六	—	
第八目	犬上郡 全上	五五五・四四五	五五五・四四五	五五五・四四五	五五五・四四五	—	
第九目	阪田郡 全上	五八六・四三三	五八六・四三三	五八六・四三三	五八六・四三三	—	
第十目	東淺井郡 全上	四四四・六三三	四四四・六三三	四四四・六三三	四四四・六三三	—	
第十一目	伊香郡 全上	四三三・九四〇	四三三・九四〇	四三三・九四〇	四三三・九四〇	—	
第十二目	高島郡 全上	五七三・二八二	五七三・二八二	五七三・二八二	五七三・二八二	—	
第十三目	大津市 全上	三三〇・六三五	三三〇・六三五	三三〇・六三五	三三〇・六三五	—	
第二款	雜收	三三〇・六三五	四〇〇・〇〇〇	四〇〇・〇〇〇	三三〇・六三五	—	
第一項	財產收入	二九七・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	二九七・〇〇〇	—	
第一目	預金利息	二九七・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	二九七・〇〇〇	—	利率の低落せしに由る
第二項	會報收入	三三・七四〇	五〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	三三・七四〇	—	
第一目	廣告料	三三・三〇〇	三〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	三三・三〇〇	—	廣告掲載豫定より少かりしに由る
第二目	會報代料	三・四四〇	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	三・四四〇	—	會報購買者豫定より少かりしに由る
第三項	過渡返納金	一・八八五	—	—	一・八八五	—	明治三十四年度經費支金中過渡金返納せしに由る

科	目	決算額	豫算額	比較の差	明
第一欸 事務所費	第一項 役員報酬	一,五三三.六三	一,七六三.三〇	減 二二九.六七	一名中途解任の儘任用せざりしと豫定の通支給を要せざりしに由る
	第二項 幹事報酬	四〇〇.〇〇	四〇〇.〇〇	〇	
	第三項 事務員俸給	四〇〇.〇〇	四〇〇.〇〇	〇	
	第四項 書記俸給	二八四.〇〇	三六〇.〇〇	減 七六.〇〇	
第二項 臨時筆生給	第一項 書記俸給	二八四.〇〇	三六〇.〇〇	減 七六.〇〇	書記欠員の爲め豫定より筆生の雇入れ多かりしに由る本費不足は書記俸給より流用支出す
	第二項 臨時筆生給	六四.二八	四八.〇〇	増 一六.二八	
第三項 旅費	第一項 會長旅費	一七.二六〇	三九.六〇〇	減 二二.三四〇	出張の少をかりしに由る
	第二項 幹事旅費	七四.六〇	一九.二四〇	減 五五.三四〇	
	第三項 書記旅費	四三.一七〇	六.八六〇	減 三六.三一〇	
	第四項 縣外旅費	五.九四〇	二七.五〇〇	減 二一.五六〇	
第四項 備品及消耗品費	第一項 備品費	五三.三一	七.八〇〇	減 四五.五〇	必要品の豫定より増加購入を要したるに由る本費不足は備品費より流用支出す
	第二項 消耗品費	九九.二六	九三.二三〇	増 七.〇三六	
第五項 雜給	第一項 小使給料	七三.〇〇〇	八四.〇〇〇	減 一一.〇〇〇	豫定の通支給を要せざりしに由る
	第二項 臨時雇人料	一,四〇〇	七,〇〇〇	減 五,六〇〇	
	第三項 惠與	一九〇.〇〇〇	九〇.〇〇〇	増 一〇〇.〇〇〇	
	第六項 雜費	一九二.二五六	一七三.〇〇〇	増 一九.二五六	
第六項 雜費	第一項 通信費	七九.四七五	八.〇〇〇	減 八.五五	豫定よりも通信費を要する事少かりしに由る
	第二項 運搬費	八七.五	一〇.〇〇〇	減 一.二八五	
	第三項 手数料	一.八〇〇	一.〇〇〇	増 〇.八〇〇	
	第四項 印刷費	五四.二六八	二六.〇〇〇	増 二八.二六八	
第七項 借家料	第一項 借家料	四八.〇〇〇	四八.〇〇〇	〇	印刷物多かりしに由る本費不足は書記俸給より流用支出す
	第二項 會議費	七〇.四九五	八八.三三〇	減 一七.七三五	
第八項 總會費	五四.〇六五	五七.三三〇	減 三.二六五		

科	目	決算額	豫算額	比較の差	明
第一欸 事務所費	第一項 役員報酬	一,五三三.六三	一,七六三.三〇	減 二二九.六七	一名中途解任の儘任用せざりしと豫定の通支給を要せざりしに由る
	第二項 幹事報酬	四〇〇.〇〇	四〇〇.〇〇	〇	
	第三項 事務員俸給	四〇〇.〇〇	四〇〇.〇〇	〇	
	第四項 書記俸給	二八四.〇〇	三六〇.〇〇	減 七六.〇〇	
第二項 臨時筆生給	第一項 書記俸給	二八四.〇〇	三六〇.〇〇	減 七六.〇〇	書記欠員の爲め豫定より筆生の雇入れ多かりしに由る本費不足は書記俸給より流用支出す
	第二項 臨時筆生給	六四.二八	四八.〇〇	増 一六.二八	
第三項 旅費	第一項 會長旅費	一七.二六〇	三九.六〇〇	減 二二.三四〇	出張の少をかりしに由る
	第二項 幹事旅費	七四.六〇	一九.二四〇	減 五五.三四〇	
	第三項 書記旅費	四三.一七〇	六.八六〇	減 三六.三一〇	
	第四項 縣外旅費	五.九四〇	二七.五〇〇	減 二一.五六〇	
第四項 備品及消耗品費	第一項 備品費	五三.三一	七.八〇〇	減 四五.五〇	必要品の豫定より増加購入を要したるに由る本費不足は備品費より流用支出す
	第二項 消耗品費	九九.二六	九三.二三〇	増 七.〇三六	
第五項 雜給	第一項 小使給料	七三.〇〇〇	八四.〇〇〇	減 一一.〇〇〇	豫定の通支給を要せざりしに由る
	第二項 臨時雇人料	一,四〇〇	七,〇〇〇	減 五,六〇〇	
	第三項 惠與	一九〇.〇〇〇	九〇.〇〇〇	増 一〇〇.〇〇〇	
	第六項 雜費	一九二.二五六	一七三.〇〇〇	増 一九.二五六	
第六項 雜費	第一項 通信費	七九.四七五	八.〇〇〇	減 八.五五	豫定よりも通信費を要する事少かりしに由る
	第二項 運搬費	八七.五	一〇.〇〇〇	減 一.二八五	
	第三項 手数料	一.八〇〇	一.〇〇〇	増 〇.八〇〇	
	第四項 印刷費	五四.二六八	二六.〇〇〇	増 二八.二六八	
第七項 借家料	第一項 借家料	四八.〇〇〇	四八.〇〇〇	〇	印刷物多かりしに由る本費不足は書記俸給より流用支出す
	第二項 會議費	七〇.四九五	八八.三三〇	減 一七.七三五	
第八項 總會費	五四.〇六五	五七.三三〇	減 三.二六五		

第一目	代表者旅費	四七四・七〇	減	五三・五八〇	開會日數少かりしに由る
第二目	書記給料	一〇・〇〇	減	五・〇〇〇	上
第三目	小使給料	二一・〇〇	減	二・一〇〇	上
第四目	消耗品費	四・四五	減	三・九五	全
第五目	印刷費	三三・三〇	増	七・七〇	豫定よりも多く印刷を要せしに由る本費不足は代表者旅費より流用支出す
第六目	雜費	一	減	五・〇〇〇	會場借家料を要せざりしに由る
第二項	評議員會費	一八・四三〇	減	六〇・五九〇	開會日數少かりしに由る
第一目	評議員旅費	一八・四三〇	減	六〇・五九〇	
第三款	事業費	五・五八〇・二〇	減	七・二五・二〇	
第一項	技術員費	四・六一・四八〇	減	五・七九・四〇	豫定よりも技術員一名欠員の儘任用せざりしと豫定の通り支給を要せざりしに由る
第一目	俸給	二・三五・〇〇〇	減	六・五・〇〇〇	出張を要すること少かりしに由る
第二目	縣内旅費	一・五四・二〇〇	減	八・四〇・六〇	出張多かりしに由る本費不足は縣内旅費より流用支出す
第三目	縣外旅費	一・六一・三〇〇	増	一・六〇〇	必要品の購入多かりしに由る本費不足は縣内旅費より流用支出す
第四目	需用費	二・六・〇〇	増	一・一〇・〇〇	豫定の如く要せざりしに由る
第五目	雜給	三〇・〇〇〇	減	八〇・〇〇〇	豫定よりも講習生の多さと講師諸費の多きを要したるに由る本費不足は蠶病消毒講習會費及見本品購入費より流用支出す
第二項	講習費	三四・一九三	減	二四・五七	
第一目	農事講習會費	一五・八二〇	増	一五・四〇〇	

第二目	蠶業講習會費	一	減	三〇・五〇〇	本會技術員を以て充用することを得他に囑托を要せざりしに由る
第三目	蠶病消毒講習會費	四三・七三	減	四・四七	豫定の通り費用を要せざりしに由る
第三項	見本品購入費	三三・八五	減	六・一五	豫定の通り購入すべきものあらざりしに由る
第四項	篤農者表彰費	一〇九・〇四〇	減	一〇・九六〇	豫定の通り要せざりしに由る
第五項	視察調査費	八三・〇〇〇	減	一七・〇〇〇	豫定の如く要せざりしに由る
第六項	耕地整理設計費	四七五・七六	減	一八・二七四	豫定の費用を要せざりしに由る
第七項	統計講習生派遣費	三三・〇〇〇	増	一五・八六	
第八項	畜産獎勵費	三三・八六	増	一〇・〇〇〇	豫定の通り要せざりしに由る
第一目	種牡牛購入費	二九・〇〇〇	減	一〇・〇〇〇	運搬其他に豫定よりも費用多く要せしに由る本費不足は種牡牛購入費及縣内旅費より流用支出す
第二目	雜費	四・八六	増	二五・八六	
第九項	講話會費	一六・九七〇	増	一六・九七〇	全國農事會加納幹事長來縣に付臨時講話會を開催せしに由る本費豫算を以て豫備費より流用支出す
第四款	會報費	六五・一五	減	一〇・八五	豫定よりも發行に要する諸費少かりしに由る
第一項	會報發行費	六五・三〇八	減	三・七三	豫定の郵税を要せざりしに由る
第二項	會報配布費	二六・九七	減	七・〇四	
第五款	獎勵費	一	減	二〇〇・〇〇〇	開會をかりしに由る
第一項	關西聯合府縣共進會出品獎勵費	一	減	二〇〇・〇〇〇	

第六款 補助費	第九・七・四三	二・六四・〇〇〇	減一・六四・五九八
第一項 模範農場費補助	六・〇八・〇〇〇	六・〇八・〇〇〇	
第二項 生糞乾燥場新設費補助	一〇〇・〇〇〇	四〇〇・〇〇〇	減 三〇〇・〇〇〇
第三項 蠶業巡回教師費補助	七九・五七	八四〇・〇〇〇	減 二〇〇・四三三
第四項 共進會品評會費補助	一八・八五	三三・〇〇〇	減 三五・二二五
第五項 稚蠶共同飼育費補助	一・五九・〇〇〇	一・五〇〇・〇〇〇	減 二四・〇〇〇
第六項 耕地整理費補助	七〇〇・〇〇〇	一・五〇・〇〇〇	減 九五〇・〇〇〇
第七項 紀念桑園並に果樹園新設費補助	八〇〇・〇〇〇	八〇〇・〇〇〇	
第七款 繕費	七・二五	一〇・〇〇〇	減 二・八五
第八款 負擔金	一八・三三〇	一八・三三〇	
第九款 豫備費	一	一〇〇・〇〇〇	減 一〇〇・〇〇〇
第十款 雜支	一・九六〇	一	増 一・九六〇
合計	一八・三四・三三〇	三・五八・三三〇	減 四・三六・〇〇〇

收支差引金四千五百九十六圓六十四錢四厘

明治三十八年度へ繰越金

事業費講話會費へ金十六圓九十七錢雜支出へ金壹圓九十八錢を流用す
 明治三十四年度支出經費に於て追給を要せしものありしに由る本費豫算を以て豫備費より流用支出す

◎明治三十七年度滋賀縣農會々務報告

○處務概要

國庫補助

本年度國庫補助金は明治三十七年四月三十日付を以て金四千圓交付の指令ありたり

縣費補助金

本年度縣費補助金は金八千四百五圓の交付を受け且明治三十八年度本會經費に對する補助の申請は明治三十七年九月提出し本縣知事之を採用せられ縣會も亦た協賛して原案の如く可決し左の命令を以て金八千四百五圓交付の旨明治三十八年三月廿二日指令ありたり

命令書

滋賀縣農會

一、補助金は六月、十二月の二回に分ち各半額を交付す

二、補助金は左の區別に依り使用すへし但不得止事由に依り此の區別に據り難き場合には事由を具し本官の認可を受くへし

一、技術員俸給

金貳千百九拾圓

滋賀縣農會報第參拾八號

本會記事

(11)

- 二、耕地整理設計費 金貳百貳拾貳圓
 - 三、會報費 金參百四拾八圓
 - 四、模範農場費 金參千四拾圓
 - 五、蠶業巡回教師費補助 金百八拾圓
 - 六、稚蠶共同飼育場費補助 金參百圓
 - 七、耕地整理費補助 金九百圓
 - 八、蠶業講習所費補助 金千貳百貳拾五圓
- 三、技術員を備入れんとするときは其俸給額及履歴を具し本官の認可を受け増俸又は解備したるときは直に報告すへし
- 四、耕地整理の設計を了したるときは直に其箇所反別其他情況を報告すへし
- 五、模範農場に對しては其規模の大小、設備の情況及成績の良否如何を斟酌し之を補助すへし但縣費補助額と同額以上を併せたる補助金を交付することを要す
- 六、模範農場の新設は左の事項を具し本官の認可を受けしむへし其事項に異動ありたるとき亦全し
- 一、名稱及位置
 - 二、用地の地面積
 - 三、建物の坪數及用途
 - 四、職員の名履歴及俸給額

七、模範農場の夏作又は冬作の種類及反別等は豫め報告すへし

八、郡農會に於て蠶業巡回教師を備入たるときは其俸給額並に履歴を具し報告せしむへし

九、稚蠶共同飼育場の位置、共同人員、掃立蟻量及擔當者の氏名は直に報告せしむへし

十、蠶業講習所の位置、開閉期日、講習人員、所長及主任技術者の氏名並に規程は遲滞なく報告せしむへし異動ありたるるとき亦同し

十一、蠶業講習所に對しては第五項模範農場補助方法に準し之を補助すへし

十二、本命令に依り郡市農會より本官に差出すべき書面は其農會を經由せしむへし

十三、本命令書の條項に違背し若くは事業の施設又は其成績不良なりと認めたるときは補助金を減額し又は返納せしむることあるへし

十四、本命令書の條項は本官に於て必要と認めたるときは變更することあるへし

右命令す

明治三十八年三月廿二日

滋賀縣知事 鈴木定直

本省へ申請

明治三十七年六月二十七日 本會經費へ追加豫算認可申請同年七月廿三日認可

明治三十八年二月三日 明治三十八年度豫算及分賦收入方法認可申請同月廿四日認可

明治三十八年三月三十一日 本會補助金交付申請

役員及技術員異動

明治三十七年五月三十一日 元茨木縣新治郡農事巡回教師小川文三郎本會技師に任用

明治三十七年五月三十一日 技師櫻井學二郎本會技師に任ぜ

明治三十七年六月二日 技師櫻井學二郎辭職

明治三十七年九月十二日 會長昌谷彰辭職

明治三十七年九月廿一日 會長伊澤多喜男當選就職

明治三十七年十一月十四日 會報編纂主任兼書記春日倬一郎辭職

役員縣外出張

明治三十七年六月一日 蠶業視察及調査の爲め京都蠶業講習所へ本會白崎幹事出張

明治三十七年七月十三日より全月廿三日迄農商務省に於て開催の産業組合講習會に出席の爲め本會春日書記

九、乾濕計を備ふること

十、飼育者は共同者中の婦女子をして可成從事せしめ雇人を使用すへからざることを

十一、掃立たる蠶兒の所有者を明知せしめざる様凡て符合を以て可成分配の際に其各自の掃立蟻量に準し行ふべきことを

十二、蠶室蠶具の消毒は嚴重に行ふべきことを

十三、飼育者心得等は便宜揭示して明知せしむること

十四、蠶兒の不良を來せる時は必ず其原因を調査して當業者に指示すべきことを

十五、飼育者必ず當直を定め置くことを

十六、分配後は一日二回以上巡視すること

十七、分配の時は共同者を參集せしむること

十八、飼育日誌は共同飼育場に備へ置き共同者の隨意閱覽に供すること

明治三十七年十月廿六、廿七、廿八の三日間本縣農事試験場内に於て郡市農會模範農場長會開催其決定事項左の如し

一、模範農場の將來に就て

二、螟虫及浮塵子驅除方法一定の件

東京市へ出張

明治三十七年十月十三日より開會石川縣石川市に於て開會の關西府縣農會役員會に出席の爲め本會白崎幹事出張

明治三十七年十一月廿四日より開會の府縣農會役員會及び第十二回全國農事大會へ出席の爲め東京市へ本會伊夫伎副會長出張

農會職員會

明治三十七年四月廿五日 滋賀縣物産陳列場俱樂部に於て稚蠶共同飼育場擔任教師打台會開催其決定事項左の如し

一、飼育日誌各欄内には詳細に記入する事

二、掃殼は保存し置くべき事

三、掃立法は糶掃法打落法(紙掃法)に據る事

四、稚蠶中除沙には網を使用すへからざる事

五、蟻量は厘秤を以て正確に量定し置くこと

六、掃立を爲すの際能く當業者をして發生蠶兒の健全を辨知せしむるの法を講ずること

七、製造者を異にせる蠶兒は混同を避くるの法を設け置くべきこと

八、飼育室には必ず適當の氣孔を設けしむること

- 三、堆肥及綠肥獎勵の件
- 四、農事講習日割の件
- 五、時局に對する本年度獎勵事項繼續の件
- 六、紀念桑園果樹園監督上打合の件

粉種の配布

本縣農事試驗場に於て採種稻種を本縣知事に申請無償交付を受け各郡市町村農會及一般希望者に分與せり其數量左の如し

稻種 六石三斗二升四合

收受發送文書件數

經由 二八 發送 五六七 收受 一・九六三

以上各項の外種苗家畜農蠶業用器具等の購入斡旋事項ありと雖も省略す

○會議

總會

明治三十七年六月廿七日より二日間本縣會議事堂に於て通常總會開會左の事項を決議認定せり

基本財産現在報告

明治三十六年度會務報告

明治三十六年度本會經費決算

明治三十七年度本會經費追加豫算

郡市村農會紀念桑園並果樹園設置費補助規程

本會種牡牛貸與規程

本會補助金交付規程中改正

明治三十七年九月廿一日本縣會議事堂に於て臨時總會開會左の事項を決議せり

名譽會員推選の件

會長選舉の件

前會長へ贈品の件

明治三十八年度事業費豫算決議

明治三十八年一月廿三日より三日間本縣會議事堂に於て通常總會開會左の事項を決議せり

本會補助金交付規程中改正の件

本會稻作競技會規程の件

本會明治三十八年度經費收支豫算

寄付金採納の件

評議員會

明治三十七年四月十二日評議員會開會其事項左の如し

豫備費支出の件

事務所修繕變更の件

臨時講話會開設の件

明治三十七年六月廿三日より三日間項左の如し

本會紀念桑園果樹園設置費補助規程

本會種牡牛貸付規程

共進會品評會補助に關する件

本會補助金交付規程中改正の件

明治三十七年度經費追加豫算の件

豫備費支出の件

明治三十七年九月二日より二日間評議員會開會其の事項左の如し

明治二十八年度豫算調査の件

明治三十八年一月廿一日評議員會開會其事項左の如し

本會補助金交付規程中改正案

本會稻作競技會規程案

本會明治三十八年度經費收支豫算

寄付金採納案

明治三十八年三月廿一日評議員會開會其事項左の如し

豫備費支出の件

耕地整理費補助に關する調査の件

○事業

本會は縣下農事の改善發達を促すへ方針順序を畫策

し技術員として實施の責に任せしめ農事上一切の調査監督及營業者の指導督勵に努め其普及實行を期するの方針にして農事上刷新獎勵を要する模範事業の外直接本會の經營に屬する事業少し即ち本年度施設に係る事業及下級農會の事業を補翼し營業者を誘導振作に資したる事項の概要左の如し

技術員巡回出張

一、農業技術員巡回日數郡市別表

郡市農會名	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
滋賀	四	三	一	八	三	一	一	一	一	一七
栗太	一	五	二	一	一	一	一	一	一	一七
野洲	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
甲賀	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
蒲生	二	二	九	一	一	一	一	一	一	一七
神崎	三	一	四	一	一	一	一	一	一	一七
愛知	一	二	三	七	三	二	一	一	一	一七
犬上	三	三	五	四	一	一	一	一	一	一七
阪田	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
東淺井	三	一	三	一	一	一	一	一	一	一
伊香	七	七	一	二	四	一	一	一	一	一
高島	四	一	九	二	二	二	一	一	一	一

大津 一 一 三 一 一 二 二 一 一 一 八 一 一 一 二 六

計 三 五 三 五 二 四 三 六 五 三 六 四 三 七 六 三

一、蠶業技術員巡回日數郡市別表

郡市農會名	開	期	前年	本年
滋賀	自一月廿二日至二月廿二日	三	三	三
栗太	自一月廿四日至二月廿四日	三	三	三
野洲	自一月廿九日至二月廿九日	三	三	三
甲賀	自一月九日至二月廿八日	四	四	四
蒲生	自一月廿七日至二月廿七日	四	四	四
神崎	自一月廿一日至二月廿一日	五	五	五
愛知	自一月廿五日至二月廿五日	五	五	五
犬上	自一月廿三日至二月廿三日	六	六	六
阪田	自一月廿六日至二月廿六日	七	七	七
東淺井	自一月廿八日至二月廿八日	七	七	七
伊香	自一月廿九日至二月廿九日	八	八	八
高島	自一月三十日至二月三十日	八	八	八
大津	自一月三十一日至二月三十一日	九	九	九
計		二 四 三 六 八 二 五 二 九 二 二 八 一		

各郡市農會に於て開設したる農蠶業講習會へ講師として本會顧問技術員等の從事したる日數及其概要左の如し

郡市農會名	開	期	前年	本年
滋賀	自一月廿二日至二月廿二日	三	三	三
栗太	自一月廿四日至二月廿四日	三	三	三
野洲	自一月廿九日至二月廿九日	三	三	三
甲賀	自一月九日至二月廿八日	四	四	四
蒲生	自一月廿七日至二月廿七日	四	四	四
神崎	自一月廿一日至二月廿一日	五	五	五
愛知	自一月廿五日至二月廿五日	五	五	五
犬上	自一月廿三日至二月廿三日	六	六	六
阪田	自一月廿六日至二月廿六日	七	七	七
東淺井	自一月廿八日至二月廿八日	七	七	七
伊香	自一月廿九日至二月廿九日	八	八	八
高島	自一月三十日至二月三十日	八	八	八
大津	自一月三十一日至二月三十一日	九	九	九
計		二 四 三 六 八 二 五 二 九 二 二 八 一		

講習人員 顧問技術員出張日數

普通 蠶業 畜産 農業 園藝 土木

高島 自一月九日 至二月六日 四 三 三 三

大津 自一月八日 至二月六日 三 二 一 一 三 三

計 一 五 六 五 六 九 六 三 五 五 四 三 九 日

技術員縣外出張

明治三十七年六月一日蠶況視察及調査の爲め京都蠶業講習所へ古藤技手出張

明治三十七年七月廿七日蠶業調査の爲め全所へ古藤技手出張

明治三十七年八月五日より岐阜、愛知、静岡縣へ農事視察調査の爲め小川技師出張

明治三十七年八月十日より種牡牛購入の爲め兵庫縣へ西俣技手出張

明治三十七年十月八日より種牡牛引取の爲め兵庫縣城崎郡へ西俣技手出張

明治三十七年十二月三日より記念果樹園苗木購入の爲め兵庫縣へ西俣技手出張

本會農事講習會

本講習會は縣下農業界の現況に鑑み斯業の刷新發達を希圖せんか爲め農事獎勵の局に當るもの若くは普通以

上の智識あるものに對し農政に關する學科を講習し世の進化に伴ひ農事の指導獎勵上遂算からしめんことを期するの目的を以て開設したるに幸に時宜に適し入會志望者多く頗る好果を收むることを得たり其概況左の如し

一、會場 本縣師範學校内

二、講習日數 八月二十二日より九月三日まで十三日間

三、講習學科及受持講師氏名

農業經營論	本縣農事試驗場長 高見 長恒
農業法制論	本縣參事官 帆足 準三
産業組合論	農商務省屬 惠 登代磨
農業土木論	東京帝國大學農科 大學助教 農學士 上野英三郎
科外講義	
害虫驅除豫防論	農學士 小貫信太郎
農事統計論	縣農會書記 春日倅一郎
農業の定義	法學士 昌谷 彰
農事試驗論	農學士 高見 長恒
勤儉貯蓄に就て	法學博士 田島 錦次

四、講習人員 八十五人

内 譯

滋賀郡 四人 栗太郎 二人 野洲郡 十人
 甲賀郡廿二人 蒲生郡十七人 神崎郡 二人
 愛知郡 二人 犬上郡 六人 阪田郡 十八人
 東淺井郡二人 伊香郡 二人 高島郡 五人
 大津市 一人

蠶病消毒講習會

本講習會は蠶病消毒の普及實行を圖らんか爲め専ら指導獎勵の任に當るものに對し講習するの目的を以て前年來繼續の事業にして本年度も尙ほ三ヶ所に開設し其結果良好あり即ち現在習得生總數四百三十五名の多きに上り幸に本講習生殆んど縣下全般に普及を見るに至れり故に將來之れか活動に俟つ所あれば消毒普及實行上便宜を得る所大あらんと信す即ち本年度本會の概要左の如し

第一開設地

野洲郡野洲村

講習日數 二週間 自八月五日 至全月十八日

講習科目 微生物學大意、蠶病論大意、蠶病消毒法大意、藥品論大意、蠶病消毒實習

講習生 二十九人

第二開設地

犬上郡高宮村

講習日數 二週間 自九月六日 至全月十九日

講習科目 第一開設地同し

講習生 四十三人

第三開設地

伊香郡本ノ本村

講習日數 二週間 自九月廿五日 至十月八日

講習科目 第一開設地同し

講習生 二十三人

農事講話會

明治三十七年四月十二日全國農事會幹事長加納子爵農商務省有働技師及織田全國農事會幹事對時局農事督勵事業視察の爲め來縣を好期とし農事講話會を本縣物産陳列場俱樂部に於て開會したるに縣官郡市農會長一般實業家其他有志多數の參聽者あり時局に對し農事獎勵上利益する點から其演題及講師は左の如し

時局に對する農事改良の冀望 子爵 加納 久宜

時局に就て 農學士 有働 良夫

問違の說 農藝化學士 織田又太郎

篤農者表彰

明治三十八年一月廿四日本縣會議事堂に於て本會第三回篤農者表彰式を舉行せり本年表彰せしもの四名にして其人名表彰文左の如し
 神崎郡山上村大字山上 小川清市郎

資性温厚夙に農桑の業に勵み孜々斯業の改善に努む明治二十七年以來縣設稻萎縮病試驗田の試験を擔當すること三年能く其任を完ふしたるのみならず一時石灰濫用の弊を唱へ或は種子を配與し農具を改善する等農界改良として自らはさるかく自ら行ふとして他を誘掖せざるを隣閭風に向ひ斯業の面目爲めに一新するに至る其熱誠洵に他の龜鑑とするに足る依て銀盃一組を贈與し其篤行を表彰す

犬上郡河瀬村大字金剛寺 柳本 與平

賦性篤實夙に濟世利民の志を抱き道路の改修治築に務めて運輸交通を便にし特産殊品の製作を督勵して海外輸出の途を擴張し肥料共同購入を企畫して以て銳意斯業の發達を圖るのみならず或は郡農會副會長となり農事改良を努め或は村宰に擧げられて農政を鹽梅し其功績歴々見るへし至篤至厚にあらんは焉を能く斯の如くあらん依て銀盃一組を贈與し其篤行を表彰す

伊香郡北富永村大字井口 常陸權右衛門

資性篤厚にして夙に意を農事の改良に注ぎ撰拔栽植の方法より耕耘培鋤の適否に至るまで苟も改良に利あるもの皆率先躬行して範を地方に垂れ或は共同苗

滋賀縣農會報第拾八號

本會記事

代の創設を勸誘し或は堆積肥料場を計畫し一として好果を擧げざるを以て農事の改良發達に資せざるを其公益に盡すこと十年一日の如く阻勉の精利民の功洵に他の龜鑑と爲すに足る依て銀盃一組を贈與し其篤行を表彰す

大津市尾花川町 三上忠兵衛

資性寬厚にして夙に農事の發達を期し會て荒蕪を拓殖して遺利を開發し十數年來斯業の公職に缺掌して稻作の改良に副業の獎勵に頗る説き安を辯し諄々扶掖して倦まず其功績頗る見るべきものあるのみならず尙進んで水産の事を督して間接に農家經濟に利し産業組合を設けて地方の特産農作物販賣の利益を擁護する等洵に他の龜鑑と爲すに足る依て銀盃一個を贈與し其篤行を表彰す

農事視察調査

縣下農事上施設事業の參考に資する爲め左の如く視察調査を囑托し明治三十八年三月派遣したり

- 一、岡山、兵庫兩縣下 特用農産物、産業組合、摸範農場、米穀改良、園藝試験、農産物輸出等の狀況、農政、農業副業に關する件視察調査を左の諸氏に囑托せり

代表者 西村市郎右衛門 篤農者 小川清市郎
 二、静岡、愛知兩縣下 産業組合、耕地整理、農
 産製造、果樹蔬菜の栽培、家畜の飼養、乾菜製造
 其他農家副業の状況及園藝、試験場、農政に關す
 る件等視察調査を左の諸氏に囑托せり
 代表者 北川吉郎平 篤農者 宇野佐壽郎

耕地整理設計

本年度に於ける耕地整理設計に關する概要左の如し
 一、愛知郡秦川村大字野野野耕地整理豫定地は前々年
 度に於て實地の測量製圖等稍々完成しあり爾來起
 工の奨勵中ありしか漸く地主の協議粗決定したる
 を以て明治三十七年五月以來之れか設計に着手し
 全年七月完成し直に發起認可を申請し全年十月廿
 七日施工認可をも得て全十二月一日より着工を見
 るに至れり此區域面積卅四町三反七畝廿三步あり
 二、明治三十七年十月七日より高島郡今津村大字梅
 ケ原耕地整理希望地の測量に着手爾來製圖設計等
 を完成し發起認可の申請を見るに至れり此區域面
 積十四町二反九步あり
 三、神崎郡能登川村大字南須田耕地整理候補地は前
 年既に測量設計等をも完成し之れを交付したるに

爾來之れか起工の協定上異議を唱ふるものあり多
 少既成の設計に變更を要し明治三十七年八月以來
 之れか更正を命じ漸く起工の協議決定せるを以て
 明治三十八年一月發起認可申請全年二月施工認可
 をも得て三月七日より着手を見るに至れり此區域
 面積十四町八反四畝十步あり
 四、明治三十八年一月六日より高島郡新儀村大字新
 庄耕地整理希望地實地測量に着手爾來製圖設計等
 に専ら從事し居れり
 以上の外の工事の指導監督に關し技術員の要求頻繁に
 して何分創新の事業されは止むを得ざる次第あり其他
 尙は測量設計等の希望ありと雖も限りある設備を以て
 一般に満足と與ふる能はず將來一層此設備をして擴張
 するの緊要あるを認むるものあり

統計講習生派遣

全國農事會に於て明治三十七年七月廿五日より翌月廿
 四日迄開催の農事統計講習會へ該講習生として左の者
 を選定派遣せり
 本會書記 春日俤一郎

畜産奨勵

縣下畜牛の改良繁殖を圖るの目的を以て本年度に於て

種牡牛貸與方法を創始し之れを實行せり即ち本年度購
 入の種牡牛及び其貸與を申請せし農會其他牝牛検査の
 成績等左の如し

一、牡牛 一頭 代價金百五拾圓

種類 和 毛色 黒 体尺 四尺三寸
 生年月 明治三十五年二月 血統 不詳
 飼養者 兵庫縣城崎郡奥竹野村農會

二、牡牛 一頭 代價金百四拾圓

種類 和 毛色 黒 体尺 四尺一寸五分
 生年月 明治三十五年二月 血統 不詳
 飼養者 兵庫縣城崎郡長井村農會

三、貸與申請農會

東淺井郡東草野村農會 高島郡朽木村農會
 四、合格牝牛証明書交付數

東淺井郡 五十八頭 高島郡 五十七頭

○會報

本年度刊行配布したる本會報總部數は八千八百四十部
 及附録七百部を發行し縣下各級農會及一般當業者に須
 要なる記事を撰載せり其他隨時注意事項農事調査報告
 の如きは附録として發刊頒布せしものあり其配布先は

左の如し

補助 郡市町村農會、本會名譽會員、郡市農會技術員、代
 議士、縣會議員、府縣農會、農事に關係ある官廳、
 學校及實業團體

○補助

本會より交付すへき補助金は技術員費模範事業及新に
 開發奨勵すへき時運に伴ふ適切なる事業費に對し規程
 の定むる所により其成績を審査し補助金を交付するの
 方法確定しあるを以て郡市町村農會其他當業者に於て
 も競ふて實績を擧ぐることに努め補助の目的を完ふす
 ることを得斯業の改良發達に關し裨益すると少から
 す即ち本年度補助交付の事業及其概要左の如し

一、郡市農會模範農場概況及補助金交付額

郡市農會名	經費	反別	位	置	補助金額
滋賀	八三九四〇	八三〇〇	堅田町大字本	堅田	四四〇〇〇〇
栗	一〇〇〇〇〇〇	一〇三三七	治田村大字小	柿	五〇〇〇〇〇
野洲	一三三二四〇	六八五	河西村大字播磨田		四〇〇〇〇〇

甲賀	一七〇・七六	三・八二	水口町大字水口寺庄村大字深川	六八・〇〇〇
蒲生	一・九五・二七〇	一五・〇〇八	金田村大字鷹飼、日野町大字大窪河原	七五・〇〇〇
神崎	一・四三・七五	一六・二三	北五個莊村大字宮莊	三九・〇〇〇
愛知	一・〇三・一四〇	一三・九五	愛知川村大字杏掛	四六・〇〇〇
犬上	八五・六六	九・二四	河瀬村大字蓮臺寺	五四・〇〇〇
阪田	一・二三・三〇〇	一五・六三	東黒田村大字長岡、六莊村大字平方、息長村大字新庄	五二・〇〇〇
東淺井	八五・六六	六・八三	虎姫村大字宮部	四二・〇〇〇
伊香	九四・〇〇〇	六・二〇	木ノ本村大字田部	三六・〇〇〇
高島	一・二二・五七	一〇・四三	饗庭村大字饗庭	四六・〇〇〇
大津	三六・〇〇〇	四・〇三	大津市松本町	八・〇〇〇
計	一四・四八・四八	一五・五七		一六・〇八・〇〇〇

郡名	新設村名	位	竣工月日	工費總額	補助金額
東淺井	七尾	佐野	三月三日	二八・九〇〇	五・〇〇〇
伊香	永原	中野	三月十日	二六・七〇〇	五・〇〇〇
郡農會名	教師人員	俸給額	補助金額		
野洲	—	—	二四・〇〇〇	—	—
甲賀	—	—	三〇・〇〇〇	—	—
阪田	—	—	四七・〇七	—	—
東淺井	—	—	二四・〇〇〇	—	—
高島	—	—	三三・九六	—	—
開設郡市農會名	名稱	出品種類	賞與費	補助金額	
大津	農產物	米麥大小	三・七〇	一八・八五	
飼育場	位	置	掃立蟻	共同	補助金
郡市名	町村名	大字名	量	戶數	交付額
滋賀	堅田	本堅田	五・七	三・三	三〇・〇〇〇
膳所	阪本	阪本	一五・六	三	三〇・〇〇〇
			四・〇	三	二七・〇〇〇

野洲	守山	立入	九・〇〇	二・三〇・〇〇〇
全	中洲	立田	五・三	二四・〇〇〇
全	北里	十王町	七・五七	二四・〇〇〇
甲賀	水口	水口	四・〇〇	二七・〇〇〇
全	大野	大野	一六・四	三〇・〇〇〇
全	宮	上馬杉	一〇・四	二〇・〇〇〇
全	全	下馬杉	九・〇	二〇・〇〇〇
全	伴谷	伴中山	一三・五	二四・〇〇〇
全	東櫻谷	川原	五・〇	二〇・〇〇〇
全	全	全	五・〇	三〇・〇〇〇
全	老蘇	東老蘇	七・〇	二四・〇〇〇
全	全	西老蘇	八・一	二四・〇〇〇
全	全	常樂寺	七・〇	二〇・〇〇〇
全	全	下豐浦	六・〇	二四・〇〇〇
全	全	淺小井	五・一	二七・〇〇〇
全	金田	南須田	七・八	三〇・〇〇〇
全	能登川	林田	三・二	二七・〇〇〇
全	御園	出在家	六・〇	二四・〇〇〇
全	栗見	賀田山	五・〇	三〇・〇〇〇
犬上	龜山	鳥居本	八・五	二〇・〇〇〇
阪田	鳥居本	鳥居本	八・五	二〇・〇〇〇
全	大原	朝日	八・四	二四・〇〇〇

全	北郷里	西上阪	一一・二	二・二四・〇〇〇
全	神照	祇園	二・六	二・二七・〇〇〇
全	湯田	大井	七・二	二・三〇・〇〇〇
全	朝日	海老江	九・五	二・三〇・〇〇〇
全	小谷	伊部	五・〇	二・三〇・〇〇〇
全	速水	馬渡	二・五〇	二・三〇・〇〇〇
全	北富永	井口	四・五	二・三〇・〇〇〇
全	全	雨森	三・〇	二・三〇・〇〇〇
全	七郷	東高田	三・五	二・三〇・〇〇〇
全	木ノ本	田部	三・〇	二・三〇・〇〇〇
全	全	黒田	四・〇	二・三〇・〇〇〇
全	丹生	下丹生	一・九	二・二四・〇〇〇
全	片岡	東野	六・七	二・三〇・〇〇〇
全	全	小谷	四・二	二・三〇・〇〇〇
全	全	文室	三・一	二・二七・〇〇〇
全	余吳	八戸	四・七	二・二七・〇〇〇
全	百瀬	澤	六・〇	二・三〇・〇〇〇
全	全	森西	七・八	二・三〇・〇〇〇
全	朽木	古川	一四・〇	二・三〇・〇〇〇
全	全	市場	八・三	二・三〇・〇〇〇

全	饗庭	饗庭	三〇.〇〇〇
全	本庄	北船木	二九.七
高島	廣瀬	下古賀	八.五
計		興	三三.九
			六元二五.〇〇〇

六、耕地整理費補助
 耕地整理の施工は本年度内に於て豫定の如く二ヶ所の着工を見るに至りたりと雖も其手續の繁雜あると工事の容易からざるが爲め遺憾をから年度内に之れか竣工を見る能はず止むを得ず補助金全部の交付は翌年度に繰延を要するに至りたり故に本年度は本會補助金交付規程第三條により既成工事の歩合を斟酌し該補助金の内左の金額を交付せり

愛知 秦川村大字輕野 金六百圓
 神崎郡能登川村大字南須田 金百圓

所在地	企業者	反別	桑樹仕立種類方	補助金額
滋賀 本下阪	下阪本村農會	一及	〇〇〇細江根刈	八七〇〇
全 石山	國分農會	一三一	全	一〇.六〇〇

全	木戸	八屋	木戸村農會	一〇〇〇	全	七.九〇〇	
全	仰木	仰木村農會	一七七	全	七.九〇〇		
全	和邇	高城	和邇村農會	二〇〇	全	一六.六〇〇	
栗太	山田	北山	山田村農會	一〇〇	全	二〇.〇〇〇	
野洲	野洲	竹生	野洲村農會	一〇〇	全	二〇.〇〇〇	
全	中洲	服部	中洲村農會	一六〇	全	二〇.〇〇〇	
甲賀	鮎川	大河	鮎川村農會	一五〇	全	八.八六	
全	水口	水口	水口町農會	一〇〇	全	八.八六	
全	南柚	市原	南柚村農會	一〇〇	全	八.八六	
全	宮	野川	宮村農會	一〇〇	全	八.八六	
全	石部	西寺	石部村農會	一〇〇	全	八.八六	
全	蒲生	安土	安土村農會	一二三	細江	全	二〇.〇〇〇

全	岡山	加茂	岡山村農會	三三三	全	立木	二〇.〇〇〇
全	神崎	栗見	栗見出在家農會	一〇〇	全	七.三〇〇	
全	建部	下野	建部村農會	一〇五	全	六.六〇〇	
全	山上	山上	山上村農會	一〇〇	全	六.六〇〇	
愛知	秦川	上岐	秦川村農會	一〇〇	全	根刈	二〇.〇〇〇
全	角井	大覺	角井村農會	一四〇	全	二〇.〇〇〇	
犬上	千本	東沼	千本村農會	一〇〇	全	二〇.〇〇〇	
全	青波	芹川	青波村農會	一〇〇	全	二〇.〇〇〇	
阪田	北郷	千草	北郷里村農會	一〇〇	全	三三.〇〇〇	
全	六莊	南高	六莊村農會	一四〇	全	三三.〇〇〇	
全	春照	春照	春照村農會	一〇〇	全	三三.〇〇〇	
全	柏原	柏原	柏原村農會	一〇〇	全	三三.〇〇〇	
全	大原	市場	大原村農會	一〇〇	全	立木	三三.〇〇〇

全	鳥居	甲田	鳥居本村農會	一〇〇	全	二〇.〇〇〇	
全	東淺	速水	速水村農會	一〇七	全	二〇.〇〇〇	
全	井	七尾	七尾村農會	一〇〇	全	二〇.〇〇〇	
全	伊香	本木	伊香郡農會	一五〇	郎彦次	全	二〇.〇〇〇
全	北富	北池	北富永村農會	一〇〇	全	三三.〇〇〇	
全	永	井口	永井村農會	一〇〇	全	三三.〇〇〇	
全	片岡	東野	片岡村農會	一三三	全	一四.〇〇〇	
全	丹生	下丹	丹生村農會	一〇〇	全	三三.〇〇〇	
高島	朽木	古屋	朽木村農會	一二七	細江	全	一五.〇〇〇
計				三三.八五			一四九.五〇〇

八、紀念果樹園設置概況及補助金交付額

所在地	企業者	反別	果樹種類	補助金額
滋賀 雄琴	雄琴村農會	一及	桃、水蜜桃、巴旦杏、柿、百目柿	八三〇〇

栗太	瀬田	神領	瀬田村	一・二三	桃天津	三〇・〇〇〇
全	草津	大井	草津町	一・〇〇〇	夏橙	二〇・〇〇〇
野洲	速野	水保	速野村	一・〇〇五	赤長十郎	二〇・〇〇〇
甲賀	龍池	池田	龍池村	一・三〇〇	桃天津	八・八八六
全	土山	北土	土山村	一・二八	梨葡萄	八・八八六
全	佐山	和野	佐山村	一・〇〇〇	水蜜桃ア	八・八八六
全	伴谷	下山	伴谷村	一・二〇〇	葡萄真鎗	八・八八六
蒲生	鏡山	鏡	鏡山村	一・〇〇〇	桃天津	二〇・〇〇〇
全	日野	松尾	日野町	一・四〇〇	赤早生	二〇・〇〇〇
全	苗	上山	苗村農會	一・〇〇〇	水蜜桃天津	二〇・〇〇〇
計	一・三	一・二七・二六	一・三〇八・四五三			

神崎	五峯	山路	五峯村	一・〇〇〇	梨上花	六・六〇〇
全	北五	小幡	北五個	一・五〇〇	赤長十郎	一三・〇〇〇
愛知	稻枝	彦富	稻枝村	一・〇〇〇	赤早生	二〇・〇〇〇
犬上	大瀧	川相	大瀧村	一・八〇〇	赤長十郎	二〇・〇〇〇
阪田	鳥居	鳥居	鳥居本	一・〇〇〇	水蜜桃天津	一
全	全	甲田	鳥居本	一・〇〇〇	桃全上	一
東淺	田根	龍安	田根村	一・八〇〇	桃天津	二〇・〇〇〇
高島	饗庭	饗庭	饗庭村	二・〇〇〇	水蜜桃天津	一五・〇〇〇
全	安曇	田中	安曇村	一・〇〇〇	梨長十郎	一五・〇〇〇
全	饗庭	饗庭	高島郡	一・六三	水蜜桃天津	一五・〇〇〇

大津 東浦 一 大津市 一・二三 水蜜桃天津 二〇・〇〇〇
 計 一・三 一・二七・二六 一・三〇八・四五三

◎本會評議員會

明治三十八年六月二十七日より三日間本會事務所に於て評議員會開會其事項及出席氏名等左の如し

第一日 六月二十七日 出席

- 副會長 伊夫伎資弼
- 幹事 白崎清兵衛
- 評議員 中村半次郎
- 全 藤野嘉平
- 全 北川吉郎平
- 全 藤田清兵衛
- 全 雲利一

一明治三十八年度本會經費變更豫算調査の件
 一本會旅費規則改正調査の件

滋賀縣農會報第拾八號

本會記事

(117)

第二日 六月二十八日出席前日は全し

明治三十七年度收支決算調査の件

第三日 六月二十九日出席前日に全し

一本會基本財産規則中改正の件

一耕地整理補助配當に係る件

一名譽會員推選の件

一前會長 紀念品贈與の件

一本日にて閉會せり

明治三十八年七月一日本會事務所に於て評議員會開會其事項及出席氏名等左の如し

出席

- 副會長 伊夫伎資弼
- 幹事 白崎清兵衛
- 評議員 中村半次郎
- 全 藤野嘉平
- 全 北川吉郎平
- 全 藤田清兵衛
- 全 雲利一

一本會基本金を以て國庫債券購入の件
 右にて閉會せり

◎明治三十八年第二回通常總會

明治三十八年六月三十日より二日間本縣會議事堂に於て通常總會開會其事項及び議事の状況は左記の通りにして各議案も原案の如く可決認定し其詳細は本會記事の始めに掲載の通りに付き略す

提出議案

- 一 第一號議案明治三十八年度經費收支變更豫算
- 一 第二號議案本會旅費支給規則中改正
- 一 第三號議案本會基本金規則中改正
- 一 第四號議案前會長へ紀念品贈與の件
- 一 第五號議案名譽會員推選の件
- 一 本會明治三十七年度經費收支決算書
- 一 本會基本財産現在表
- 一 明治三十七年度本會會務報告
- 一 會長選舉

第一日 午前十時十五分開會

出席代表者

- 二 番 久保彌重郎
- 三 番 藤田清兵衛
- 四 番 本多嘉兵衛
- 六 番 澤 庄助
- 七 番 山本孫三郎
- 八 番 小澤七兵衛

- 九 番 木村半次郎
- 十 番 雲 利一
- 十二番 淺見辰次郎
- 十三番 安孫子長兵衛
- 十四番 西村市郎右衛門
- 十六番 三上忠兵衛
- 十七番 中村半次郎
- 十九番 中野 次七
- 二十番 澤田 吉藏
- 廿一番 白崎清兵衛
- 廿二番 藤野 嘉平
- 廿三番 北川吉郎平
- 廿四番 芦田松太郎
- 廿五番 岡田 八藏

欠席代表者

- 一 番 福島 一
- 五 番 石井田與三松
- 十一番 伊吹義八郎
- 十五番 居初靜太郎
- 十八番 中村佐一郎

番 外

- 一 番 副會長 伊夫伎資弼
- 二 番 幹事 小財捨太郎
- 三 番 全 白崎清兵衛

伊夫伎副會長假議長席に就き議長の選舉を行ひたるに十四番西村代表者當選假議長に代り議長席に就き副議長の選舉を行ひたるに十七番中村代表者當選し本會議開會伊夫伎副會長より會務の報告及議案の大体に關し説明あり引續き第一號議案全部の一次會を開く旨議長の宣告あり此際前總會に於て評議員に付托せられたる

耕地整理補助の件調査の結果報告あり質疑應答あり原案通過し次て第二號議案の一次會に移り別に質問あり可決し引續き本案二次會開會讀會省略確定す次に第三號議案一次會開會原案通過引續き二次會開會之又讀會省略確定次に第五號議案を付議せられ全上確定し喫飯の爲め休憩せり

午後零時四十分開會番外より會長選舉の請求あり會長選舉を行ひたるに本縣知事鈴木定直君満点にて當選す此際二十番澤田代表者より建議あり未了議案全部五名を調査委員に付托するの動議あり成規の賛成あり此の説に決し委員は議長の指名に任すことあり茲に會長の承諾を求むる爲め漸時休憩引續き開會左の調査委員五名を議長より指名推選し調査を付托して本日閉會す

調査委員

- 七 番 山本孫三郎
- 九 番 木村半次郎
- 十二番 淺見辰次郎
- 十六番 三上忠兵衛
- 二十番 澤田 吉藏

第二日 午前九時五十四分開會

出席欠席代表者及番外前日の通り

議長開會を宣告此際前日付托の調査委員調査の結果を二十番澤田代表者より報告あり直に第一號議案全部の

二次會を開たるに原案の如く讀會省略確定し次に第四號議案一次會開會原案通過し續て二次會開會本案も讀會省略原案に確定次に十七番中村代表者外五名より提出に係る耕地整理施工費補助に關する本縣知事へ建議の提出あり此の建議を議題とし討議すことあり(建議案末尾にあり)賛成者多數之を採用すことあり直に二次會開會讀會省略確定す此際伊夫伎副會長前日本會長に選舉ありたる鈴木本縣知事は固辭し承諾せられす其事情止むを得ざるものと認むるを以て更に會長の選舉を請求せられ更に選舉することあり選舉の結果本縣事務官帆足準三君當選せり次に三十七年度收支決算書及基本財産現在表をも併せて一次會開會質疑をく通過し二次會に於て讀會省略認定することに決定依て會務の報告をも承認せり斯くて議事終了したるを以て議長は閉會を告げ伊夫伎副會長より閉會の挨拶あり散會したるは午前第十一時十六分あり

建 議

農事改良上多大の利益を現實せらしめ其効果を永遠に收むるものは耕地整理事業ありとす故に前年來之れが獎勵に着手したるに既に一二模範耕地整理の實施を見大に其効果あるを認むるを得將來縣下農界の爲め本事

業の獎勵は目下の急務たるを以て明治三十九年度より該施工費に對し縣費にて相當補助の方法を設けられんことを本會の決議を以て本縣知事へ建議せんとす

明治三十八年七月一日

提出者

- 中村半次郎
- 北川吉郎平
- 藤田清兵衛
- 藤野嘉平
- 雲利一
- 澤田吉藏

議長 西村市良右衛門殿

◎國庫補助金交付

三十八年度本會經費國庫補助金交付申請に對し四月二十七日左の指令ありたり
農第二〇四一號

滋賀縣農會
農會法に依り其の農會に對し明治三十八年度に於て金貳千五百圓を交付す
明治三十八年四月廿七日
農商務大臣 男爵清浦奎吾印

◎本會費縣費補助交付
金に對する命令書

三十八年度本會費補助金八千四百五圓に對する命令書
三月二十二日付左記の通本縣知事より達せられたり
滋賀縣農會

明治三十七年九月二十四日付申請其農會事業費補助の件聽屆明治三十八年度に於て金八千四百五圓を交付す但し別紙命令書の通心得へし
明治三十八年三月廿二日
滋賀縣知事 鈴木 定直

(命令書は三十七年會務報告中にあり略す)

郡市町村農會記事

◎縣下各郡市農會本年度經費豫算

左表の通にして前年に比し栗太、野洲、犬上を除き他は悉く増加を示せり

郡市農會名	收 入		補助金	前年度繰越金	計	前年度豫算額	比較増減
	町村農會負擔金	雜收入					
滋賀	八三、三三〇	一、三三、三五五	一、四九七、五〇〇	一、五〇、〇〇〇	三、六六三、二二五	一、九三三、〇六〇	一、七三二、〇五五
栗太	一、〇六四、九七六	五五、三〇〇	二、〇三六、三六七	一	三、六四六、六四五	三、七九二、二七四	一四、五九九
野洲	五七、五八五	三九、七〇〇	一、〇一八、八二七	三九、〇三三	二、四五六、一四五	二、六二七、六四五	一六、五〇〇
甲賀	一、二八七、一九〇	一、一六四、八五〇	三、九七一、四六〇	一、五〇、〇〇〇	六、五七三、五〇〇	六、三三八、三八一	二四五、一一九
蒲生	二、二八三、九〇六	八四、八三〇	一、八七〇、〇〇〇	三九、九五〇	五、一八、六六六	五、〇三三、五七七	八六、一一九
神崎	一、一四五、九三三	一、〇〇〇、〇〇〇	一、九三三、〇〇〇	一	四、一七、九五三	二、八四八、〇九九	一、三二九、八五四
愛知	九〇七、三三七	五三、八八九	六八六、〇〇〇	一八三、四九九	二、三〇、六六五	二、一九、六四六	一七三、〇一九
犬上	六九、〇三八	三五四、〇〇〇	五四、〇〇〇	三九、九五五	一、九七、九三三	二、二二、〇五三	一九四、〇七〇
阪田	一、五九七、三五四	一、二九、一五〇	三、三三三、〇〇〇	七九、〇〇〇	六、八九、五〇四	四、七五、一八二	二、〇六四、三三三
東淺井	六六、〇〇五	八四、四〇〇	二、〇三三、〇〇〇	二九三、三三三	三、八四、七七七	三、三九、七二二	四八、〇五五
伊香	一、四八、九三〇	三三、六〇〇	七四、〇〇〇	二五三、〇八四	二、七、六六四	二、二九、五九〇	六三、〇七四
高島	四二〇、四五三	一、〇五、三五〇	二、七七、七九八	六七、四九八	四、三三、〇九六	三、六四、一七三	七四、九二六

大津 九八・一五二 100,000 300,000 四九八・一五二 四八八・五六一 九・六二〇
 計 三・九九・〇八九 九・七三・四四四 三・六三・九五三 二・七五・三五二 四八・二四九・八五五 四一・二七四・八三三 六・八五・〇三四

備考 本表は本年九月迄の追加豫算を合算す、比較増減欄●印は増加を表す、甲賀郡農會寄付金百八拾圓及伊香郡農會使用料貳圓を何れも雜收入中に加入せり

郡市農會名	支 出			計			前年度豫算額	比較増減
	事務所費	會議費	事業費	獎勵費	補助費	雜支出		
滋賀	四八・七三三	九・八〇〇	二・三三・六三三	一三〇,〇〇〇	一	四三・一八七	九・三三六	一・九六・二〇〇 ●
栗太	三六・〇〇〇	一三・〇〇〇	二・〇八・五〇〇	一	一	五九・八八五	五〇,〇〇〇	三・六四・六四五 三・七九・一七四
野洲	三三・七五〇	一〇・〇〇〇	一・九三・七〇〇	一	一	四八・〇六〇	四八・〇〇〇	二・四四・六一二 二・六七・六六二
甲賀	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一・九三・七〇〇	一	一	六三・〇〇〇	六三・〇〇〇	六・五七・三〇〇 六・三三・六八一
蒲生	七四・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二・八七・六〇〇	一	一	七八・〇〇〇	五〇,〇〇〇	五・二八・六六六 五・〇三・三六七
神崎	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二・九三・七〇〇	一	一	四七・七五〇	四〇,〇〇〇	四・〇七・九五五 二・八四・〇九九
愛知	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二・九三・七〇〇	一	一	五三・七五〇	一〇,〇〇〇	二・三〇・六八五 二・九六・六六六
犬上	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二・九三・七〇〇	一	一	五三・七五〇	一〇,〇〇〇	一・九七・九四五 二・二二・〇五三
東淺井	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二・九三・七〇〇	一	一	五三・七五〇	一〇,〇〇〇	六・八九・五〇四 四・七五・八三二
伊香	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二・九三・七〇〇	一	一	四三・〇〇〇	三・八四・七七七	三・五三・六七三
高島	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二・九三・七〇〇	一	一	五三・七五〇	一〇,〇〇〇	二・七二・六八四 二・三九・五九〇
大津	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	二・九三・七〇〇	一	一	三三・七五〇	一〇,〇〇〇	四・三三・〇三〇 六・三三・〇三〇
合 計	四六六・七三三	一三三・六三三	一三三・六三三	一三三・六三三	一三三・六三三	九三〇・〇〇〇	九三〇・〇〇〇	九三〇・〇〇〇 九三〇・〇〇〇

備考 本表は本年九月迄の追加豫算を合算す、野洲郡農會講習會費百九圓、甲賀郡農會農業教師費二百七十八圓二十錢、愛知郡農會講習會費廿五圓、農事談話會費廿五圓、模範農場費千貳十三圓十七錢を事業費中に全部農會訴訟費貳百圓を雜支出中に加入し、犬上郡農會模範農場費九百十五圓六十五錢八厘、阪田郡農會農業教師費千四百二十五圓、高島郡農會褒賞費二十二圓を事業費中に加入したり

◎愛知郡秦川村輕野整理

地管理作業組合同規約

縣下に率先耕地整理を斷行し圓滿に其好果を收め摸範を示したる愛知郡秦川村輕野は更に農事上一致の必要を認め左の規約を設けて之を實行し整理地の管理と農事改良上總ての作業を共同實行することゝあり既に郡長の認可を経て本年六月一日より施行しつゝあり實に縣下農業界の爲め好摸範と云ふへし規約左の如し

愛知郡秦川村輕野整理地管理作業組合同規約

第一章 總 則

- 第一條 本組合は耕地整理地の管理及農事改良發達を圖るを以て目的とす
- 第二條 本組合は整理地管理作業組合と稱す
- 第三條 本組合の事務所は大字輕野乙第二十一番地に置く
- 第四條 本組合は耕地整理地區内の地主及小作者を以て組織す
- 第五條 本組合に左の役員を置く

組合長 一名 幹 事 一名

委 員 三名

- 第六條 組合長及幹事委員の任期は二ヶ年とす但し再選を妨げず
- 第七條 補欠選舉に依り就任したる組合長又は幹事委員は前任者の任期を繼承す
- 第八條 組合長及委員は組合總會に於て組合員中より選舉し幹事は組合長之を任命す
- 第九條 幹事は組合長の指揮を受け組合の事務を分擔處理す
- 第十條 委員は組合長を補佐し組合事務執行の議に與る
- 第十一條 組合長及幹事委員は無給とす
- 第十二條 本組合の會合は通常總會及臨時總會委員會議の三種とす
- 第十三條 通常總會は毎年一回一月之を開く
- 第十四條 臨時總會は組合長が必要と認めたる時若くは組合總會の五分の一以上より會議の目的及其招集の事由を示して請求したるとき之を開く
- 第十五條 委員會は組合長に於て必要と認めたる時臨時之を開く

第十一條 總會は組合総員の三分の一以上出席するにあらざれば開會することを得ず

第十二條 總會委員の議長は組合長之に當る組合長事故あるときは委員中の年長者之に代るものとす

第十三條 總會の議事に關する細則は總會に於て之を定む

第十四條 總會臨時總會は左の事項を議決するものとす

一、組合事業の經營

二、組合事業執行に關する方法

三、組合經費の豫算及經費徴收に關する方法

四、其他必要ある事項

委員會は總會が委任したる事項及組合長に於て必要と認めたる事項を議決するものとす

第三章 整理地管理

第十五條 整理地區の土地は之れを分割して賣買讓渡をせざるものとす若し止むを得ざるものあらば其事由を具し組合長の承認を経べし

第十六條 整理地區の土地の賣買讓渡は組合員相互の間に於て之を行ふべし若し止むを得ざるものあ

らば其事由を具し組合長の承認を経べし

第十七條 整理地道路の修繕、溝渠の浚渫は毎年必

其二回以上期日を定めて同時に執行するものとす

其期日は組合長より通知すべし

第十八條 樋管及大小水開は組合長の承認を受くる

にあらざれば伏替を爲すを得ざるものとす

第十九條 整理地の道路溝渠及樋管水開等に異變を

生じたるときは其發見したるものは直ちに組合長

に報告するものとす

第二十條 畦畔及溝畔に崩壞を生じたるときは其所

有主は直に組合長に報告し立會の上修繕を命ずる

ものとす

第二十一條 旱魃に際し鑿水不足を生ぜるときは組

合長は各自の灌漑を停止し直ちに若干の水利夫を

使用して各田の供給を均一にするものとす

第二十二條 畦畔には如何なる事由あるも一切雜木

を植栽するを得ざるものとす

第四章 作業

第二十三條 本組合は農事改良の實を擧げんが爲め

左の各項を履行す

一、米麥種類の撰擇及其種子の鹽水選を共同實行

すると

二、短冊形共同苗代を實施すると

三、苗代時期に於て害虫驅除を怠らざると

四、稻の正條植を實行すると

五、組合長に於て挿秧の時期を定むると

第二十三條 前條の各事項を履行せんが爲必要ある細則及方法は組合總會又は委員會に於て之を定む

第五章 雜則

第二十五條 組合員は産業組合法により農業に必要ある産業組合を設置する目的を以て左の事項を履行す

一、貯金をあすと

二、農業を營むに必要ある物品を共同購入すると

三、農業に必要ある資金を供給すると

四、農産物の共同販賣を爲すと

第二十六條 前條の各事項を履行せんが爲必要ある細則及方法は組合總會又は委員會に於て之を定む

第二十七條 組合の經費は組合員の負擔とす

第六章 違約處分

第二十八條 組合員にして本組合の主義目的に反したる行爲あるときは事の輕重に依り違約金を徴集

するものとす其額は五拾錢以上壹圓五拾錢以下とし委員會に於て之を定む

第二十九條 違約金は組合の積金と爲す其保管及支出の方法は組合會の決議に據るものとす

第三十條 本組規則は郡長の認可を受くるものとす其改正増補の時も亦同し

第三十一條 本組規則に加盟したるものは將來家督相續等の爲家名に異動を生じるときは其繼業者

に於て本組規則を履行するの義務あるものとす

附則

本規約は明治三十八年六月一日より實施す

雜報

◎耕地整理の氣運大に進めり

主務省の調査に係る法律施行當初即ち明治三十三年より全三十七年末に至る既往五ヶ年間に於ける耕地整理發起認可及施行認可の統計を見るに發起認可個所數五百十三、反別二万三千九百町歩、施行認可個所數四百三十六、反別二万町歩にして整理費用豫算額は貳百七拾八萬圓あり單位に換算すれば整理地一ヶ所平均四十

町歩、費用豫算五千五百餘圓にして一反歩平均拾貳圓に相當す全國各府縣中最盛なるは宮城縣にして五十六ヶ所、三千町歩之れに亞ぐは千葉縣、岐阜縣の二千町歩、新潟、埼玉、茨城、石川の一千町歩とす參考の爲め左に之を表示すべし

法律施行當初よりの發起認可及施行認可統計

府縣	發起認可		施行認可		豫算
	簡所	反別	簡所	反別	
東京	二	七、四二〇	二	七、四二〇	六、二四七、七四
京都	九	二〇、七八四	六	一四、九四六	三、九〇五、五九
大阪	二	一〇、六二九	一	二、六三五	五〇、三九、九九〇
神奈川	六	四三、三〇八	五	四〇、七九〇	六九、四八五、四九
兵庫	五	一四、八六〇	三	七、五三四	一七、一六、四九
新潟	三	一、六七、三三〇	二	一、四八、三七五	一四、五〇六、五〇三
埼玉	一	一、三三、一八九	一	一、三三、一八九	一、三三、一八九
群馬	二	八、四、七〇〇	二	八、四、七〇〇	九四、四、一五九
千葉	二	二、五三、七四九	一	一、四、七〇〇	三二、六九五、七〇四
茨城	一	一、三三、三〇四	一	一、三三、三〇四	九〇、八九二、〇六七
栃木	一	四、一、一六五	一	三、七四、八〇三	七四、〇五、八二〇
三重	四	一、四、七六二	三	六、三、四〇三	二五、三、四〇、〇六七
愛知	七	七二、六〇六	五	五九、五八八	八九、〇七、六四五

静岡	二	七六八、八三四	一九	七三、〇七五	九四、三七、七六三
山梨	一	七、九四九	一	七、九四九	一、二四、八三〇
滋賀	一	三、四、七三三	一	三、四、七三三	六、一六、五四〇
岐阜	八	二、五、五、〇〇一	四	三、〇、七一九	二、三、七、三三
長野	九	一、五、四、三三〇	九	一、五、四、三三〇	四、四三、三七八
宮城	二	二、八、四、九一九	四	二、五、七、五九四	一、五、六、三、〇九七
福島	二	五、九、八七四	五	三、三、七、三〇〇	四、八、三、四、六一
岩手	三	四、〇、七、四二七	二	三、四、三、〇〇〇	三、三、八、五、〇七
山形	三	七、三、八二二	六	四、七、七、三〇〇	四、〇、六、七、六四〇
秋田	三	一、八、九、九一九	三	一、八、九、九一九	一、三、八、四、〇、四八
福井	七	六、四、五、〇三三	三	四、八、七、〇〇六	八、九、四、三、六九
石川	三	二、〇、六、八九三	三	一、〇、六、八九三	一、二、七、七、三三
富山	五	六、七、三三八	二	一、五、五、三〇三	九、四、七、〇、六九
島根	六	三、七、八、七〇四	六	三、七、八、七〇四	三、〇、九、三、三六
岡山	三	一、八、五、六七二	二	一、五、八、九四	三、〇、三、七、八四七
広島	四	九、七、六〇三	三	五、五、六、一〇六	三、三、六、五、七、七
山口	六	七、〇、六、五〇三	六	六、三、五、四二四	二、四、〇、九、五、〇二五
香川	一	一、五、三、五〇九	一	一、五、三、五〇九	五、七、五、五、八
福岡	一	六、九、一、六七	二	五、六、三、六四	一、五、七、〇、六二
分	四	五、三、八〇八	四	五、三、八〇八	一、九、八、五、一、六七

参考の爲め左に之を表示すべし

一、施行認可の分

地名	反別	發起認可年月日	施行認可年月日	参加町数	参加人員
愛知郡秦川	三反	三、七、九、七	三、七、九、七	一	五
神野	三反	三、七、九、七	三、七、九、七	一	五
神野郡能登	三反	三、七、九、七	三、七、九、七	一	五
川村南須田	三反	三、七、九、七	三、七、九、七	一	五
高島郡今津	二反	三、四、五、三	三、四、五、三	一	五
村梅原	二反	三、四、五、三	三、四、五、三	一	五

二、整理既成の分

地名	反別	起工年月日	結工年月日	整理費	反當收量
愛知郡秦川	三反	三、七、九、七	三、七、九、七	一、〇〇〇	一、〇〇〇
川村南須田	三反	三、七、九、七	三、七、九、七	一、〇〇〇	一、〇〇〇
高島郡今津	二反	三、四、五、三	三、四、五、三	一、〇〇〇	一、〇〇〇
村梅原	二反	三、四、五、三	三、四、五、三	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計				四、〇〇〇	四、〇〇〇

三、認可申請中に属する分

地名	反別	申請中
高島郡新儀村新庄	二反	二、四、二、一〇一
計		二、四、二、一〇一

佐賀 九 二四、四二二 四 二四、四二二 三、八八、七〇三
 熊本 一八 五三、七五五 一七 五三、一四六 四、二〇、二〇三
 宮崎 四 三、五、五九七 一 九、〇七〇 六、九四、二五二
 鹿兒島 四 一、四、五、一〇四 四 一、四、五、一〇四 三、三九、七四九
 計 五三 一、三九、〇、八〇一 四三 一、三九、〇、八〇一 二、七九、五、八、五九

前表發起認可地五百十三個所中三十七年度に於て認可を與へたるもの百八十個所、反別八千百町歩に達し全部の約三分の一を占む新潟縣の十七ヶ所、宮城縣の十四個所は其最多なるものとす以て本事業の好況を察すべきあり

次に明治三十六年より三十八年九月に至る二ヶ年間本縣下に於ける耕地整理施行認可の分、整理既成の分、認可申請中に属する分、縣農會に申出に係る分の統計を見るに耕地整理施行認可及整理既成の個所三ヶ所、反別六十町七反〇十歩にして整理費用豫算額は壹万壹千四百拾參圓六拾參錢貳厘あり單位に換算すれば整理地一ヶ所平均二十町二反三畝十三歩にして一反歩に付平均拾八圓八拾錢貳厘に相當す而して現に發起認可申請中に属するもの一ヶ所、反別二十四町二反一畝一步にして未だ認可申請の運びに至らざるも縣農會に申出に係る分は九ヶ所にして此反別總計四百六十町歩あり

地名	反別
東淺井郡湯田村	一〇〇〇〇〇〇
甲賀郡柏木村酒八	四〇〇〇〇〇
高島郡新儀村太田	一二〇〇〇〇〇
野洲郡中洲村新庄	六〇〇〇〇〇
栗太郡金勝村上砥山	四〇〇〇〇〇
神崎郡北五個莊村宮莊	一〇〇〇〇〇
蒲生郡桐原村安養寺	五〇〇〇〇〇
蒲生郡鏡山村鶴川	三〇〇〇〇〇
伊香郡永原村山門	一〇〇〇〇〇
計	四六〇〇〇〇〇

而して過般來縣下に於ける耕地整理地の見込反別及び其之れを整理することによりて受くる利益の概算せるものを擧ぐれば次の如し

種目	面積	整理により受くる利益
排水を要するもの	四〇・八三反	四〇〇・二六七〇
灌水不足のもの	四三・三〇〇〇〇	三三九・四五〇〇〇
區劃不正のもの	三五・四九〇・〇〇〇	二〇九・四四一・一〇〇
其他のもの	二九・四〇〇・〇〇〇	三二八・七四三・四〇〇
計	一四九・〇三三・〇〇〇	一・〇六七・九七二・四〇〇

即ち之等の土地に於て整理を實行するときは實に年々百六万七千九百十七圓二十四錢の利益を收むるを得べし
 思ふに富國強兵の原因は果して那邊に存すべきか勇敢なる兵士は多く農業國民より出で戦勝の光榮は常に農業國に歸しつゝあるは歴史の既に之を証する所あり然らば則ち國を富まし兵を強ふせんか爲め農業の保全獎勵を計るは正に當今の急務と謂ふべし
 農業が最も確實なる職業たり農民が最も幸福なる人民たりしは實に彼等自ら生産せし穀菜を食ひ彼等自ら機織せし衣服を纏ひ又時に自ら建築せし家屋に住せし時代に至る、今や世界の經濟は正に一變して社會の組織亦頗る其趣を改むるに至りしかば農業は必しも最も確實なる職業たらせ、農民の生活は最も幸福なる生活たらざるに至りぬ、現今あるが如く交通機關の發達以來海外万里の農産物も容易に低廉なる運賃を以て國內に輸入せらるゝに至り從て國內の農業者は未だ嘗て經驗したるときき新開國農業の競争を受くることあり穀價の下落とあり收入の不足とあり負債の増加とあり年を追ふて次第に困厄の窮狀に陥るに至りたるあり國內に於ける交通機關の發達は地方農民の利益を増加するべからせ

の傾向あるや明がありと雖も而かも海外に於ける交通機關の發達に至りては其影響を異にするものあるを見る、聞く處によれば米國に於ては米一石の代價七圓、暹羅にては四圓を以て損益相補ふに足るの見込ありと云ふ我國の米穀にして若し拾圓以下に下落するときは多くの農業者は之が爲に甚しく困難を感ぜし況んや八圓以下に下落するに於ては全く維持すべからざるに至らん

人或は曰く之等新開國農業と對抗せんと欲せば宜しく我國の農法を改め米國乃至暹羅に於ける耕作方法を模倣するに如くせけん然れども我國に於ける農業は從來一定面積の土地の上に多くの勞力と資本とを投じて行ひ來りたるものあるを以て若し之れを一變して安りに他國の例に倣ひ粗放的に將た大農組織にするが如きとあらんか只だ徒らに其收穫を減せるの外なきあり然らば之に對して如何の策を取るべきや幸にして我國の米作農業は最も完全なる發達を遂げつゝあるが故に益々其發達を助長し其耕作を改良するは勿論、凡くの農業者が全力を盡して米作に従事すべきあり、即ち此の如くにして全然米穀輸入の必要をからしめ國民の食物は凡て之を我國に於て生産せんとを期せざんばある

然る富國強兵の實を擧げんとするには農業を盛からしめざるべからせ、農業を盛からしめんとせば益々其發達を助長し其耕作を改良せざるべからせ然りと雖も我國に於ける耕地の錯雜は實に甚しきものあり今農事調査表に據れば田一筆平均反別六畝餘歩、畑一筆平均反別五畝餘歩、全國平均田一反歩以上の區劃は全筆數の二割一分、全一反歩以下五畝歩以上は二割六分、五畝歩以下五割三分にしく全國平均畑二反歩以上の區劃は全筆數の八分、一反歩以上一割八分、一反歩以下七割四分、以上は田畑全筆數に對する區劃の大小を掲げしものあれども實際に於ては一筆の田畑も尙數區に分劃せらるゝもの往々々として見受くるが故本邦田畑區劃の狭少なる實に其極に達するものありと稱するも敢て過言にあらざるべし、區劃狭少なる前述の如しと雖も其形狀も亦甚不規則にして三角形のものあり又著籍然なるあり尙極めて甚しきに至りては瓢形、鈴形、如きものなきにも非定、工業の發達は我農界の勞働者を吸收すると明かにして將來勞働者減少の農界に及ぼす關係は至て大なるべきを想像す而して我國は前述の如く農業の要素たる耕地の區劃狭少にして形狀も亦複雑を

れば經濟的に農業を營むと蓋し至難に屬するを以て耕地整理事業の必要は言を俟たせしめて今日已に農界の主要事業と認められしは又自然の勢ありと謂ふべし

蠶業講習所春蠶飼育成績

各蠶業講習所に於ける春蠶は概して發育好良且阪田郡蠶業講習所を除く外は六月中旬より襲來せる霖雨期前

Table with columns: 蠶業講習所 (Institution), 蠶量 (Silk quantity), 繭 (Cocoon), 繭量 (Cocoon quantity), 繭一 (Cocoon 1), 繭二 (Cocoon 2), 繭三 (Cocoon 3), 繭四 (Cocoon 4), 繭五 (Cocoon 5), 繭六 (Cocoon 6), 繭七 (Cocoon 7), 繭八 (Cocoon 8), 繭九 (Cocoon 9), 繭十 (Cocoon 10), 繭計 (Total cocoon), 繭一 (Cocoon 1), 繭二 (Cocoon 2), 繭三 (Cocoon 3), 繭四 (Cocoon 4), 繭五 (Cocoon 5), 繭六 (Cocoon 6), 繭七 (Cocoon 7), 繭八 (Cocoon 8), 繭九 (Cocoon 9), 繭十 (Cocoon 10), 繭計 (Total cocoon), 繭一 (Cocoon 1), 繭二 (Cocoon 2), 繭三 (Cocoon 3), 繭四 (Cocoon 4), 繭五 (Cocoon 5), 繭六 (Cocoon 6), 繭七 (Cocoon 7), 繭八 (Cocoon 8), 繭九 (Cocoon 9), 繭十 (Cocoon 10), 繭計 (Total cocoon).

備考 生繭一升の重量を百匁として換算記入せり、阪田、高島の二ヶ所は蠶量一匁の給桑量を示し他は用桑量を記入せり

本縣農會補助稚蠶

共同飼育に就て

從來本縣農會に於て稚蠶共同飼育の奨励必要を認め補助金を交付せしこと明治三十五年にありては二十八ヶ所にしして共同人員三百八十人、掃立蠶量三貫四十七匁八分、而して之に要せし補助金額四百五拾圓ありし明納川六年にありては三十八ヶ所、掃立蠶量二貫八百九十六匁九分、共同者數五百十人に達せり、而して之に要せし補助金額九百圓ありし又昨三十七年にありては四十八ヶ所にしして掃立蠶量三貫八百二十二匁五分にして之に要せし補助金額千貳百五拾九圓ありし如右年一年に其數を増加せるは本事業の有利有益あるを認識せられたる結果に外ならず、而して本年に於ける狀況は左表の如し

Table with columns: 飼育場 (Breeding site), 位置 (Location), 共同 (Joint), 掃立 (Sweeping), 蠶量 (Silk quantity), 繭量 (Cocoon quantity), 繭一 (Cocoon 1), 繭二 (Cocoon 2), 繭三 (Cocoon 3), 繭四 (Cocoon 4), 繭五 (Cocoon 5), 繭六 (Cocoon 6), 繭七 (Cocoon 7), 繭八 (Cocoon 8), 繭九 (Cocoon 9), 繭十 (Cocoon 10), 繭計 (Total cocoon).

計	愛知	犬上	阪田	全	全	全	全	東淺井	全	全	伊香	全	全	全	全
計	大瀧	北郷里	西上阪	北郷里	東上阪	祇園	六莊	大郷	八木濱	細江	川道	中野	虎姫	速水	余吳
圓城寺	川相	春近	東上阪	春近	東上阪	祇園	平方	八木濱	八木濱	細江	川道	中野	中野	賀	中之郷
二二	一七	一四	三三	二〇	二二	二〇	一〇	二〇	二〇	二〇	二二	二〇	一〇	二〇	一〇
二一三〇〇	二一七〇〇	二二二〇〇	二一七〇〇	二二〇〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇	二一七〇〇
三〇〇	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五

甲賀	蒲生	神崎	愛知	犬上	阪田	東淺井	伊香	高島
六	五	二	一	一	五	五	九	八
五二七	二七五	二〇〇	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
一〇七	五	三	二	一	一	五	一〇	一〇
五二七	二七五	二〇〇	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五

◎稻種名改稱

本年四月開催の各都市農會模範農場長會に於て協議の結果異名全種の稻種に對し左の通り名稱を改め稻種名の統一を期すること、せり

- 一 渡船、雄町を渡船とす。
- 一 關取、十禪寺、大房、小房を關取とす。
- 一 壽、九年隱、岡山、例十、市村、竹成を壽とす。

滋賀縣農會報第參拾八號

明治三十八年稚蠶共同飼育前年比較表

野洲	滋賀	郡市名	個所	蠶量	共同	前年	蠶量	共同
三	四	個所	蠶量	共同	前年	蠶量	共同	
三〇八	二四七							
三三〇	四三三							
三三〇	三三〇							

◎專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則中改正ノ件

第一條 第二號中「曹達」ノ上ニ「鹽酸」ヲ第三號中「肥料」ノ下ニ「選種」ヲ加フ

第五條 第一項中「溜澗油」ノ字ハ「削ル」

第六條 第一號乃至第六號ヲ左ノ如ク改ム

- 一、鹽酸、曹達、硫酸曹達製造用
- 二、純硫酸
- 三、純硫酸製造用
- 四、石鹼製造用
- 五、石鹼粉末
- 六、無水炭酸曹達
- 七、肥料選種用
- 八、硫酸曹達
- 九、石鹼
- 十、石鹼製造用
- 十一、石鹼粉末
- 十二、無水炭酸曹達
- 十三、肥料選種用
- 十四、硫酸曹達
- 十五、石鹼
- 十六、石鹼製造用
- 十七、石鹼粉末
- 十八、無水炭酸曹達
- 十九、肥料選種用
- 二十、硫酸曹達

金、銀、銅鑛ノ粉末又ハ其ノ汰物五
 石油 ○.五 硫化鐵 五
 木炭粉末 二.五 石炭粉末 二.五
 第十二條第三項中「金十一錢五厘」ヲ「金十七錢」ニ改ム
 第十五條 第一條第一號又ハ第六號ノ用途ニ使用スル
 爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日
 ヨリ一箇年以内ニ稅務署又ハ鹽務局ノ交付シタル鹽
 使用濟證明書ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ賣渡ノ日ヨリ一箇年以内ニ全部ノ
 使用濟證明書ヲ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事
 由ヲ具シ未使用鹽ニ付一箇年毎ニ稅務署又ハ鹽務局
 ノ承認ヲ申請シ其ノ證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ賣渡鹽
 務局ニ提出スヘシ
 第十七條中「第十五條」ヲ削ル
 第十八條 第五條ニ依リ提供シタル擔保ハ其ノ鹽ノ全
 部ヲ漁獲物鹽藏用ニ供シタルコトヲ證明セラレタル
 トキ又ハ其ノ不足額ニ對スル追徵金ヲ納付シタルト
 キ之ヲ解除ス
 第十九條第三號ヲ左ノ如ク改ム
 三、第一條第一號第二號第四號及第五號ノ用途ニ使
 用シタルトキ
 鹽 百斤ニ付金壹圓參拾錢
 同條ニ左ノ一項ヲ加フ
 味噌ヲ以テ溜醬油ヲ釀造シタル者ハ其使用シタル味
 噌百斤ニ付金十七錢ノ割合ヲ以テ交付金ノ下付ヲ政

府ニ請求スルコトヲ得
 第二十二條 第十九條ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セム
 トスル者ハ同條第一項第三號ノ場合ニ於テハ鹽使用
 證明書ヲ、同條第二項ノ場合ニ於テハ味噌使用證明
 書ヲ申請書ニ添附シ之ヲ使用地所轄鹽務局ニ提出ス
 ヘシ
 第一條第二號第四號及第五號ノ用途ニ使用スル鹽ニ
 付テハ鹽變性證明書ヲ以テ前條ノ鹽使用證明書ニ代
 フルコトヲ得
 第十九條第一項第三號ノ用途中溜醬油ヲ釀造シタル
 場合ニ於テハ第十二條第二項第三項及第十七條ヲ準
 用ス
 第二十三條 第一項中「醬油査定證明書」ヲ「味噌使用
 證明書」ニ鹽使用又ハ醬油査定ノ際「鹽」又ハ味噌
 使用ノ際「ニ改ム
 第二十七條第一號ヲ左ノ如ク改ム
 一、外國ニ輸出シタル鹽又ハ鹽藏魚類ニ付テハ輸出
 後第一條第一號第二號第四號乃至第六號ノ用途ニ
 使用シタル鹽又ハ第十九條第二項ノ味噌ニ付テハ
 使用後六箇月ヲ經過シテ出願シタルトキ
 同條第二號中「第一號乃至第五號」ヲ「第一號第二號第
 四號及第五號」ニ改メ「使用スル鹽」ノ下ニ「又ハ第十九
 條第二項ノ味噌」ヲ加フ
 附則
 本令ハ明治三十八年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

滋賀縣農會報第拾八號附錄

明治三十八年十月三十一日
 農會報第拾八號

明治三十八年

稻 種 鹽 水 撰
 短冊形 苗代 整地
 稻 苗 代 害 虫 驅 除
 共同及集合苗代ノ設置
 稻 正 條 植
 綠 肥 栽 培

成績

第一 準備

- 一 昨年十二月十九日縣訓令第九十一號ヲ以テ短冊形苗代及共同苗代ノ普及並綠肥ノ栽培、堆肥ノ製造ヲ獎勵セムコトヲ期シ各郡市適當ノ方法手段ヲ以テ勸誘方郡市長ニ訓令セリ
- 二 昨年ニ於ケル害虫驅除豫防ノ成績良好ニシテ米ノ實收高百貳拾六萬八千九百貳拾七石ヲ得、三十六年ノ實收高ニ比シ拾壹萬四千石餘、平年ニ比シ拾貳萬石餘ノ增收ヲ得タリ之素ヨリ天候適順ナリシニ依ルヘント雖害虫ノ防除其ノ宜シキヲ得タル結果タラズンバアラス故ニ本年ニ於テモ昨年ノ方針ニ基キ尙實踐ニ鑑ミ一層周到ナル注意ヲ以テ未發ニ之ヲ防キ若發生スルモ直ニ驅除ヲ勵行シテ徒ニ蔓延セシメザラシコトヲ期シ本年二月郡市長ニ親ク訓示セリ
- 三 本年三月二十二日內務部長ヨリ各郡市長ニ對シ左ノ事項ヲ通牒セリ
(1) 穀種蠶帳ハ前年ノ例ニ依リ此際總テ調製セシムルコト、(2) 各町村又ハ大字毎ニ鹽水撰實行ノ日割ヲ定メシムルコト、(3) 大字毎ニ一名以上ノ擔任者ヲ定メテ撰種一切ノコトヲ指示又ハ取扱シムルコト、(4) 撰種當日ニハ郡市役所町村役場又ハ農會ヨリ吏員又ハ職員出張ノ上監督スルコト、(5) 各農家ガ苗代地ノ耕耘着手前ニ於テ各大字毎ニ總會ヲ開キ町村長等ヨリ本年ハ必ズ整地ノ際總テ短冊形ニスベキ旨普ク指示セシムルコト、(6) 苗代整地ノ時期ニ於テハ町村役場員又ハ區長等ヲ時々巡視セシメ短冊形ニ違フモノハ直ニ引直サシメ昨年ノ如キ播種後ニ於テ踏切ヲ要スルガ如キコトナキ様注意セシムルコト、(7) 郡市役所ヨリモ時々巡視ノ上監督スルコト
- 四 本年五月十二日委員長ヨリ各郡市委員長ヘ左ノ事項ヲ通牒セリ
(1) 害虫驅除豫防ニ付テハ過般長官ヨリ訓示相成候旨趣ニ基キ一層督勵ノ上好成績ヲ舉ケムコトヲ期シ苗代ノ整地等著々勵行ノ上本月中ニ完了報告スルコト、(2) 郡市委員異動ノ向キハ補欠ノ上本月二十日迄ニ總員ノ官氏名受持區等報告スルコト、(3) 町村內各部落ニ若干ノ驅除豫防員ヲ置キ嚴ニ督勵スルコト、(4) 郡市委

員長ハ前項驅除豫防員ノ名簿ヲ設備スルコト、(5)郡市委員長ハ一定ノ簿冊ヲ定メ前項驅除豫防員ヲシテ其ノ區内ノ狀況ヲ記入セシムルコト、(6)本月三十日迄ニ自己ノ氏名町村大字名ヲ記シタル標札ヲ苗代ニ建テシムルコト、(7)害虫驅除豫防ノ施行順序方法ヲ定メ郡市委員、町村長、區長、農會長、其ノ他關係ノ者ヘ指示シ尙各作人ヘ周知セシムルコト、(8)本通牒ノ事項ハ前項ノ施行順序方法中ニ定ムルコト

五

本年五月十二日委員總長ヨリ各郡委員副長及大津警察署長ヘ左ノ事項ヲ通牒セリ
(1)昨年ニ於ケル害虫驅除豫防ノ成績良好ナリシヲ以テ本年ニ於テハ昨年ノ實績ニ鑑ミ一層盡力スルコト、
(2)短冊形苗代ノ實行ニ關シ一層盡力スルコト、(3)各郡ニ於ケル紫雲英、畦畔ノ雜草等既ニ浮塵子發生シ殊ニ被害ノ最モ甚シキ稗草、鬚丸ノ種類多キヲ以テ今後充分注意方部下各委員ニ訓示ノ上尙各作人ヘ警告スルコト、(4)委員欠員ノ向キハ此際補欠ノ上本月二十日迄ニ總委員ノ官氏名受持區等報告スルコト

六

本年五月十七日委員總長ヨリ各郡市正副委員長ニ左ノ事項ヲ通牒セリ
(1)短冊形苗代整地ニ付テハ目下各郡市共檢査實行中ノ處緩嚴ノ度區々ニ相成候トキハ其ノ影響スル處少ナカラザルニ依リ成規ノ寸法ニ違フモノハ毫モ假借セズ一齊ニ斷行スルコト、(2)短冊形苗代ノ効用ヲ知ラシムル爲メ苗代ノ管理其ノ他害虫ノ防除等ニ充分苗代内ノ通路ヲ利用セシムルコト、(3)注油驅除ニ要スル器具及「たも」等ノ設備ヲ整ヘシムルコト、(4)害虫驅除豫防實行ノ際ハ日割ヲ定メ號鐘其ノ他ノ合圖ヲ以テ一齊ニ從事セシメ各部署ヲ定メテ監督スルコト、(5)各大字ニ豫察燈ヲ点火セシメ螟蛾發生ノ時期ヲ誤ラサルコト、(6)作人ニハ害虫ノ實物ヲ示シテ其ノ被害及經過等ヲ懸示スルコト、(7)誘蛾燈及「たも」又ハ注油驅除器等ノ使用法ニ付テハ實地ニ付テ教示スルコト、(8)各大字ニ苗代位置ノ圖面ヲ備付セシムルコト
七 從來溫度ノ關係ニ依リ極暑ニ至ルトキハ自然螟虫窒死スルヲ以テ強テ驅除豫防ニ盡力スルノ要ナシト迷信スル者アルヲ以テ本年五月二十日委員總長ヨリ各郡市委員長ヘ之ガ試驗ノ成績ヲ添ヘ決テ自然ニ撲滅スヘキモノニアラザル旨各作人ヘ懸示方通牒セリ

八

本年五月二十三日委員總長ヨリ郡市正副委員長ヘ左ノ事項ヲ通牒セリ
(1)農事試驗場附近ニテ既ニ苗代ニ浮塵子發生セシヲ以テ各郡市其實地取調ノコト、(2)此際一齊ニ驅除實行方ノコト、(3)害虫ノ發育迅速ナルコト及桑樹等ニモ害虫少ナカラザルニ付充分驅除勵行ノコト、(4)害虫ノ發生ヲ認メタルトキ急報方ノコト、(5)縣委員派遣ニ付万事協力ノ上實効ヲ奏セシムルコト
九 害虫驅除豫防法施行規則第六條ニ依リ發スル命令ノ形式ハ郡令ヲ以テシ其ノ實行ノ確實ト各郡規ニスヘキ旨委員總長ヨリ各郡長ヘ通牒セリ
十 本年五月二十五日縣委員ノ打合會ヲ開キ驅除豫防監督ニ關シ諸般ノ打合セテ爲シ別ニ縣委員心得書ヲ配付ス
十一 郡市委員長及委員副長ハ各町村長其他關係吏員等ヲ召喚シテ驅除豫防實行ニ關スル諸般ノ事項ヲ指示又ハ協定シ其ノ他委員ノ受持區ヲ定メ各町村ノ設備ヲ檢査スル等總テノ準備ヲ完成セリ

第二 實 行

- 一 短冊形苗代及稻種鹽水撰施行ノ狀況視察ノ爲メ四月九日ヨリ縣委員ヲ各郡市ニ派遣ス
- 二 害虫ノ發生視察ノ爲メ五月二十六日ヨリ縣委員ヲ各郡市ニ派遣ス
- 三 郡市委員長又ハ副長ハ自ら各町村ヘ出張シ又ハ郡委員ヲ派遣シテ稻種鹽水撰ノ實行及短冊形苗代ノ實行並ニ驅除豫防ニ必要ナル器具其ノ他設備ヲ監督ス
- 四 播種後ハ縣郡市委員ハ絶ヘス受持區域ヲ巡視シテ親シク實地ニ付キ害虫ノ發生如何ヲ監視シ作人ヲシテ看過スルガ如キコトナカラシメタリ
- 五 四月二十七日縣下各地ノ畦畔雜草又ハ紫雲英ニ浮塵子發生シ五月十九日東淺井郡ニ於テ桑園ニ尺蠖蝸蝓ノ發生ヲ認メ同月二十日高島郡劍熊村ノ稻苗代ニ浮塵子發生セシ以來漸次蒲生、伊香、阪田、愛知、栗太、野洲、東淺井、滋賀、神崎、犬上、甲賀、大津ノ各郡市ヨリ苗代ニ浮塵子又ハ螟虫發生ノ急報アリタルモ直ニ縣郡市委員ヲ始メ町村吏員農會役員等出張ノ上作人ヲ督勵シテ驅除セシメタルヲ以テ本年ハ其ノ被害ノ程度

最も低ク全体ニ通シテ格別ノ被害ナキヲ認メタリ

第三 成 蹟

- 一 本年稻種鹽水撰ヲ實行セシ種量ハ壹万七千七百貳拾八石四斗八升五合ニシテ稻種總量貳万四千五百五拾四石七斗一升二合ニ對シ八割七分ニ當レリ之ヲ昨年ノ實行數量ニ比スレハ貳千七百七石四斗八升五合ヲ増加セリ其ノ詳細ハ別紙第一號表ノ如シ
- 二 本年苗代總反別ハ千貳百二十七町六反二畝二十步ニシテ其ノ内作人自ラ短冊形ニ整地セシ反別千七十九町七反四畝二十三歩、説諭ヲ加ヘ實行セシメタル反別百四十七町八反七畝二十七歩ナリ之ヲ昨年ノ短冊形實行總反別ニ比スレハ三十六町五反二畝十七歩ヲ増加セリ其ノ詳細ハ別紙第二號表ノ如シ
- 三 本年苗代ニ於ケル害虫捕殺ノ總數ハ螟蛾八百三万六千四百八十五蛾ニシテ螟卵五百二十七万三千七百七十五塊、浮塵子其ノ他ノ害虫四十石五斗三升ナリ之ヲ昨年ニ比スレバ螟蛾四百二十二万四千五百八十九蛾、螟卵四百九十一万七千九百九十塊ヲ減少シ浮塵子其ノ他ノ害虫ニテ十三石三斗七升ヲ増加ス其詳細ハ別紙第三號表ノ如シ
- 四 本年實行セシ共同苗代反別ハ十三町八反三畝十八歩、集合苗代反別ハ四百七町一反七畝八歩ニシテ之ヲ昨年ニ比スレバ十六町一反二十六歩ヲ増加セリ其ノ詳細ハ別紙第四號表ノ如シ
- 五 本年正條植實行反別ハ三万七千九百四十九町八反歩ニシテ作付總反別六万五千四百四町歩ニ比シ六割三分ニ當レリ之ヲ昨年實行ノ反別ニ比スレバ四千四百八十二町二反歩ヲ増加ス其ノ詳細ハ別紙第五號表ノ如シ
- 六 本年綠肥栽培反別ハ八千七町三反九畝十五歩ニシテ其種類ハ紫雲英、豆類、苜蓿、肥大根、菜種等ナリ之ヲ昨年ノ栽培反別ニ比スレハ中ニハ減少セシモノアルモ差引二千四百四十町三反九畝十五歩ヲ増加ス其ノ詳細ハ別紙第六號表ノ如シ

第四 利益計算

一 金九拾六萬貳百八拾五圓六拾貳錢五厘

稻種鹽水撰利益

鹽水撰ヲ實行セシモノト然ラザルモノトノ差本田一反歩ニ付一斗三升(本縣農事試驗場ノ調査ニ依ル)增收アルモノトシ本年鹽水撰種ヲ用ヒタル作付反別五万九千九百四十四町五反歩(一反歩ノ種量平均三升トシテ算出ス)ニ對シ七万六千八百二十二石八斗五升トナル之ヲ石十二圓五十錢トシテ換算セリ

二 金五拾六萬五千六百七拾圓拾八錢八厘

害虫驅除利益

螟蛾採捕總數八百三万六千四百八十五蛾ノ内其ノ半數ハ雄蛾ト看做シ残り半數四百一十八千二百四十三蛾ノ内其ノ二割及卵塊採捕總數五百二十七万三千七百七十五塊ノ二割ハ他ノ蛾、卵ノ混交セシモノアリト假定シ之ヲ扣除シ其ノ殘數ニ對シ一蛾ニ付一升六勺、一卵塊ニ付二合六勺五才(本縣農事試驗場ノ調査ニ依ル)ヲ蝕害スルモノトシテ計算スレハ四万五千二百五十三石六斗一升五合トナル之ヲ一石拾貳圓五拾錢トシテ換算セリ

三 金六拾貳萬六千七百七拾壹圓七拾錢

稻正條植利益

正條植ヲ實行セシ爲メ一反歩ニ付平均一斗三升二合ノ增收(農商務省農事試驗場山陽支場ノ試驗ニ依ル)アルモノト假定シテ計算スレバ本年正條植實行反別三万七千九百四十九町八反歩ニテ五万九千三百七十三石七斗三升六合ヲ增收スルニ至ル之ヲ一石拾貳圓五拾錢トシテ換算セリ

以上ノ利益ヲ合計スレバ貳百拾五萬貳千百貳拾七圓七拾五錢貳厘ニシテ害虫驅除ノ爲メ要シタル石油代及器具代並ニ鹽水撰ニ要シタル鹽代等ハ前記計算外ノ浮塵子其他ノ害虫驅除ニ於ケル利益ヲ以テ相殺スルモノトスレバ各作人等ガ之ニ從事セシ勞力ヲ以テ如上ノ利益ヲ得タルモノト看做スモ可ナラン之ヲ郡市別ニ算出スレバ別紙第七號表ノ如シ

明治二十八年稻種鹽水撰

第一號

種

量

農

戶

數

施行

月日

郡市名	總量	鹽水撰施行數量	百分比	浮粒量	總數	鹽水撰施行戶數	百分比	施行月日
滋賀	一、五九三、〇七〇	一、四四五、〇八五	九一	一〇五、二六二	四、八四五	四、七二九	九七	自四月一日起至四月三十日
栗太	二、四三三、六九六	二、〇〇三、九三九	八二	二、八四、三三〇	六、三三七	六、二四二	九八	自四月六日起至五月六日
野洲	一、九六三、〇〇〇	一、八二二、二〇〇	九一	一、八二、二〇〇	六、二五〇	六、一七一	九八	自三月二十日起至五月十八日
甲賀	二、六三三、五〇〇	二、六三三、五〇〇	一〇〇	二、五五、三三〇	八、四六〇	八、四六〇	一〇〇	自三月十一日起至五月十一日
神戶	三、四四四、五〇〇	二、六九七、九五五	七八	二、四八、二四六	一、一八九五	一〇、三〇二	九一	自三月廿二日起至四月廿二日
愛知	六八五、七六四	六五九、二四八	九六	三、四、九八	三、七三三	三、六九〇	九八	自四月廿七日起至五月廿七日
大坂	一、一四一、六二七	九六九、九〇五	八五	九、九〇〇	五、七六六	五、三〇四	九一	自四月廿五日起至五月三十一日
東淺井	七五五、四七〇	五七九、七七一	七六	七、六五七	六、〇九四	五、一〇七	八四	自四月八日起至五月八日
伊香	七九〇、三三四	六八九、七六九	八七	六、九六二	五、五〇〇	五、〇〇六	九一	自四月二十日起至五月二十日
高島	二、二二三、七五一	一、八八一、三二一	八二	一、五二、四三七	七、三三九	六、五五〇	九〇	自四月十五日起至五月十五日
大津	六、五八	六、二〇〇	九四	四、三	一、八二	一、六七	九三	自四月廿六日起至五月廿六日
計	二〇、四四四、七三三	一七、七七八、四四五	平均 八七	一、七三、一六八	八二、九四二	七五、一六一	平均 九一	千四百九百

大津市ノ種量前年ニ比シ甚シク減少セシハ前年ハ滋賀郡へ出作地ノ分モ加算セシモノ之レハ控除スル方穩當ト考へ本年ハ之ヲ控除セシニ依ル

明治二十八年苗代短冊形整地成績

第二號

郡市名	苗代總反別	反別	簡所	戶數	反別	簡所	戶數
滋賀	一〇、三九一、九〇一	一〇〇、五九二	四、五七七	四、六九八	二、五九二	一四八	一四七
栗太	九、八〇三	八五、四九〇	二、八〇三	五、七四四	六、三三〇	四〇	五八三
野洲	六、八〇八	五〇、八七六	二、〇九一	三、八三三	一、六、九四三	一、七〇四	一、九〇四
甲賀	一、四、八三九	一、四、五五四	八、七五七	八、四三〇	三、七二五	三三	三三
神戶	一、七、三〇六	一、四九、五九六	六、六二二	一〇、五四五	二、七二〇	一、〇八	一、五八四
愛知	五、九、九五一	五〇、九〇八	二、二二五	三、五五四	三、〇三三	一、六	一九
大坂	二、三、三〇〇	八五、三三三	四、六二八	四、五九五	三、六、九六七	一、九二二	一、八九三
東淺井	八、八、三三二	八、六、三三三	五、一九七	五、一七四	一、九九九	二、九八	三、五
伊香	一、七、四六八	八、三、三〇〇	五、六六八	六、五七一	三、六、一〇八	二、四四七	二、七四八
高島	六、七、四六六	五、九、九〇七	五、五五六	五、四二二	八、八、二〇九	八、三二	八、五
大津	一、五、六四六	一、四、八、八三三	三、三三〇	四、三、七六	八、三、〇〇〇	一、二四	一、二四
計	一、三、七、六三〇	一、〇、七、九、七四三	五、八、六七	六、九、七〇九	一、四、七、八七七	九、七、六六	二、五、二

苗代總反別及個所ハ前年ニ比シ多少増減アルモ短冊形ニ整地セシ反別ハ前年モ本年モ全部實行セシニ付前年トノ比較増減ヲ掲表セヌ

明治三十八年苗代害虫驅除成績

第三號

Table with columns for 郡市名 (Municipality), 害虫發生別 (Type of pest), 全上發見 (Total found), 學校生徒 (Students), 其他 (Others), 計 (Total), 浮塵子其他害虫採捕數 (Number of dust and other pest captures), 卵塊及蛾買上金額 (Amount of egg masses and moths purchased), 全上買上率 (Total purchase rate). Rows include 滋賀, 栗太, 野洲, 甲賀, 蒲生, 神崎, 愛知, 犬上, 阪田, 東淺井, 伊香, 高島, 大津.

八

明治三十八年共同苗代及集合苗代

第四號

Table with columns for 郡市名 (Municipality), 苗代總反別 (Total anti-pest measures), 全上個所 (Total locations), 共同苗代反別個所 (Anti-pest measures for common seedlings), 集合苗代反別個所 (Anti-pest measures for collective seedlings), 卅七年ニ比シ増減 (Increase/Decrease compared to 1905). Rows include 滋賀, 栗太, 野洲, 甲賀, 蒲生, 神崎, 愛知, 犬上, 坂田, 東淺井, 伊香, 高島, 大津.

明治三十八年稻正條植成績

第五號

九

郡市名	作付反別	正條植		反別	計	作付反別ニ對スル正條植反別ノ百分比例	三十七年ニ比シテ正條植實行反別ノ増加
		片正條植	兩正條植				
滋賀	三七八・一	九六一・三五	七〇〇・五	一・〇三・三	二七	三六九・一	九六・二
栗太	四・七八・四	二・三七・四	四・〇	二・三六・二	五	九六・二	九六・二
野洲	五・二九・〇	三・五五・二	一・七四・七	五・二八・三	一〇	三五・一	三五・一
甲賀	七・四〇・〇	二・三四・二	—	二・三四・二	三	三五・六	三五・六
生賀	九・七三・一	七・四四・七	—	七・四四・七	七	八九五・六	八九五・六
神崎	二・五三・三	一・七六・四	四・八	三・五二・九	七	四四・四	四四・四
愛知	五・〇四・一	二・八一・五	九一・三	三・三七・八	七	二〇一・六	二〇一・六
犬上	三・八九・七	二・一六・一	一一・二一・六	三・三七・七	八	六九四・六	六九四・六
坂田	五・六八・三	四・三〇・八	四九九・五	四・八〇・七	八	四四七・九	四四七・九
東淺井	三・五五・九	三・五三・五	—	三・五三・五	九	二・四	二・四
伊香井	二・六八・二	一・〇六・一	六八六・八	一・七三・九	六	五五九・九	五五九・九
高島	五・九八・三	五・七六・六	四・六	五・九二・二	〇	六二八	六二八
大津	二・二二・六	一・〇三・四	—	一・〇三・四	二	三〇・八	三〇・八
計	六〇・五〇・〇	三三・八三・一	五・〇七・七	三七・九四・八	平均	三三・三	三三・三

明治三十八年綠肥ノ栽培

郡市名	種類	栽培反別	收穫總量	一反歩收穫高	前年ニ比シテノ増減
滋賀	紫雲英	三〇・七二〇	一・九〇・三九九	三三〇	六八・八三〇
栗太	紫雲英	二・九〇〇	四三・八〇〇	二〇〇	三・九〇〇
野洲	紫雲英	二・一八〇〇	五・九五〇	二五〇	三・一八〇〇
甲賀	紫雲英	—	—	—	—
生賀	紫雲英	—	—	—	—
神崎	紫雲英	—	—	—	—
愛知	紫雲英	—	—	—	—
犬上	紫雲英	—	—	—	—
坂田	紫雲英	—	—	—	—
東淺井	紫雲英	—	—	—	—
伊香井	紫雲英	—	—	—	—
高島	紫雲英	—	—	—	—
大津	紫雲英	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

郡市名	種類	栽培反別	收穫總量	一反歩收穫高	前年ニ比シテノ増減
栗太	紫雲英	九四二・一四三	四七・一五二	五三	四五・六〇〇
野洲	紫雲英	四七・一五二	五・一五二	二七九	一六・九〇〇
甲賀	紫雲英	五・一五二	—	三六	一〇・九〇〇
生賀	紫雲英	—	—	—	—
神崎	紫雲英	—	—	—	—
愛知	紫雲英	—	—	—	—
犬上	紫雲英	—	—	—	—
坂田	紫雲英	—	—	—	—
東淺井	紫雲英	—	—	—	—
伊香井	紫雲英	—	—	—	—
高島	紫雲英	—	—	—	—
大津	紫雲英	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

大計

菜種
紫雲英
豌豆
蠶

1,100.00
700.00
6,850.00
5,500.00
2,600.00
8,077,391.50

2,330.00
2,569.00
2,926.00
1,335.00
697.00

差引増

1,100.00
700.00
4,950.00
5,000.00
2,600.00
2,240,391.50

利益金額郡市別表

第七號

郡市名
滋賀 栗野 甲賀 蒲生 神崎 愛知 犬上 坂田 東井 伊香 高島

鹽水攪種利益

78,979,875
12,880,625
10,941,225
14,052,625
14,191,500
14,191,500
35,709,375
2,445,750
5,562,250
5,689,750
3,381,375
3,381,375
3,381,375
3,381,375
3,381,375
21,888,875

蠶虫蠟除利益

20,876,888
89,268,688
55,267,150
9,910,725
7,104,700
3,751,475
7,585,350
8,277,888
7,386,423
7,257,925
5,293,575
2,574,575

正條植利益

17,026,450
39,240,300
87,159,950
38,646,300
33,877,500
29,186,850
6,588,700
5,082,050
7,377,050
5,807,750
2,097,850
9,556,800

計

26,854,123
141,391,623
144,366,325
174,691,650
103,397,700
103,397,700
203,529,800
187,836,188
143,440,123
96,394,050
70,753,425
233,030,250

大計 津

331,500
960,385,625

425,125
555,670,427

1,706,100
626,171,700

2,146,275
2,153,275